大日本蠶絲會報

第四拾號

明治二十八年十月

目次

●論說
◎米國機業の進歩と我生絲の關係　今西直次郎
◎世界の蠶業　橋本重兵衛

●寄書
◎秋蠶種催青試驗の顚末　田中眞太郎
◎寄蔵籠の代用品に就て　内藤雋之助
◎蠶種貯藏庫成蹟に就きて　日本蠶種貯藏株式會社
◎我邦蠶業者の一大注意　橋本重兵衛

●統計
◎八月中生絲屑物輸出數量元價及收砂統計◎八月中耕布類輸出數量元價統計◎二十七年蠶絲眞綿蠶蛹紙產額◎生絲屑類及眞綿產額累年比較◎最近五ヶ年生絲產出高及海外輸出高累年比較

●問答
◎養蠶に就き質問並に答◎桑樹枯死に就き質問並に答◎蠶病其他に就き質問並に答◎蛆害及蠶種製造に就き質問並に答

●外報
◎歐洲諸國養蠶成蹟◎北米合衆國生絲輸入高◎里昂蠶絲商況◎米國向本邦製輕量羽二重の重要

●雜報
◎農商務省第十四回報告◎富山縣の雅蠶◎南佐賀縣の養蠶◎青森縣の蠶業◎兵庫縣の新蠶種◎岩手縣の養蠶◎福島縣の蠶業◎宮城縣の蠶業◎山形縣の製糸業◎群馬縣の蠶業◎長野縣の蠶業◎滋賀縣の蠶業◎愛知縣の蠶業◎三重縣の蠶業◎大阪府の蠶業◎京都府の蠶業◎奈良縣の蠶業◎和歌山縣の蠶業◎鳥取縣の蠶業◎島根縣の蠶業◎岡山縣の蠶業◎廣島縣の蠶業◎山口縣の蠶業◎愛媛縣の蠶業◎高知縣の蠶業◎福岡縣の蠶業◎佐賀縣の蠶業◎熊本縣の蠶業◎大分縣の蠶業◎宮崎縣の蠶業◎鹿兒島縣の蠶業◎沖縄縣の蠶業◎北海道の蠶業◎蠶業傳習所卒業者の出國◎蠶業傳習所卒業者の出國◎蠶業傳習所卒業者の出國

◉大日本蠶絲會第一回品評會開設廣告

本會第一回品評會來る十一月十五日より十七日まで三日間東京市赤阪區赤阪溜池町大日本農會々堂に於て開設候に付き會員諸君は成るべく御出品且つ御參觀あらんことを希望す　但し會員外のものと雖も出品を諾し可成的多數出陳致し度に就き右出品方精々御勸誘相成度此段特に希望致候也

東京市神田區美土代町貳丁目壹番地

大日本蠶絲會

●特別廣告

◎入會者　左の諸氏は九月より十月に渉りて通常會員に加入せられたり

東京　農學士河原次郎　埼玉　荒井松助　青森　三浦信三郎
同　加藤正茂　同　加藤勝三　同　三浦吉郎
神奈川　石井孝之助　同　塚越武三郎　山形　小川與三郎
同　奥津喬次郎　同　木村柳太郎　同　岡部清三郎
同　吉川寅吉　群馬　境野清衛　島根　和田孫二郎
新潟　堀江周平　同　久森鑿朗　香川　熊田信吏
同　長谷川榮吉　同　戸塚五郎作　同　大平周一
同　田村榮八　千葉　弓北喜代次　同　香川廣次
同　佐藤嘉一郎　愛知　前田喜平　高知　大澤案山子
同　佐藤貞雄　靜岡　鈴木忠三　鹿兒島　古河長吉
同　木村重延　宮城　三浦平右衛門

計　三十二名

右の内にて河原氏は高橋信貞氏　加藤正茂氏井　塚越　境野の四氏は宮崎慶之氏　石井外二氏は齋藤吉三氏　堀江氏は鶴巻又太郎氏　長谷川外四氏は新潟支會熟れも紹介せられ　加藤(勝三)木村　前田　鈴木　三浦(平右衛門)小川　和田の七氏は各自に申込まれ久森外二氏は生方五郎氏　三浦(信三郎)外一氏は藤戸竹綱氏　阿部氏は佐藤保嘉治氏　熊田外二氏は多賀甚太郎氏　大澤氏は吉良禎吉氏　古河氏横山吉三氏熟れも紹介せられたり

●會費金延滯の會員諸君に謹告す

拜啓本會も創立以來各地當業者諸君の贊成を得て漸次盛大に相成會員の數も尙ほ追々增加の盛況これあるべく候就ては一層會務の擴張を相謀り斯業を開發せしむるの責務を全ふし申度種々計畫罷在候處制規の會費延滯する者あり會務の處辨上甚た困難を生じ候殊に來る十一月品評會開設候に付ては是又幾許の入費を要し候間事情御洞察會費延滯の諸君は迅速に御拂込み相成度此段特に謹告仕候也

明治廿八年十月

大日本蠶絲會

追て郵便爲替に御取組の節は拂渡局を東京神田郵便局に御取計相成受取人を東京神田區美土代町貳丁目大日本蠶絲會と御記入相成るべし、又通運便に托し現金にて御送付の節は配達賃必ず御拂込の事、若し郵便切手代用の節は必ず一割增しにて御送付なさるべし

●特別廣告

◎入會者　左の諸氏は九月より十月に渉りて通常會員に加入せられたり

東京	農學士河原次郎	埼玉	荒井松助	青森	三浦信三郎
同	加藤正茂	同	加藤勝三	同	三浦吉郎
神奈川	石井孝之助	同	塚越武三郎	山形	小川與三郎
同	奥津喬次郎	同	木村柳太郎	同	阿部清三郎
同	吉川寅吉	群馬	境野清衛	島根	和田孫二郎
新潟	堀江周平	同	久森紫朗	香川	熊田信史
同	長谷川榮吉	同	戸塚五郎作	同	大平周一
同	田村榮八	千葉	弓北喜代次	同	香川廣次
同	佐藤嘉一郎	愛知	前田喜平	同	高知 大澤榮山子
同	佐藤貞雄	靜岡	鈴木忠三	鹿兒島	古河長吉
同	木村重延	宮城	三浦平右衛門		

計　三十二名

右の内にて河原氏は高橋信貞氏　加藤(正茂)荒井　塚越　境野の四氏は守屋慶之氏　石井外二氏は齋藤省三氏　堀江氏は鶴巻又太郎氏　長谷川外四氏は新潟支會孰れも紹介せられ　加藤(勝三)木村　前田　鈴木　三浦(平右衛門)小川　和田の七氏は各自に申込まれ久森外二氏は生方五郎氏　三浦(信三郎)外一氏は篠戸竹榮氏　阿部氏は佐藤保嘉治氏　熊田外二氏は多賀其太郎氏　大澤氏は吉其禎吉氏　古河氏樺山吉三氏孰れも紹介せられたり

●會費金延滯の會員諸君に謹告す

拜啓本會も創立以來各地當業者諸君の贊成を得て漸次盛大に相成會員の數も尙ほ追々增加の盛況これあるべく候就ては一層會務の擴張を相謀り斯業を開發せしむるの責務を全ふし申度種々計畫罷在候處制規の會費延滯する者あり會務の處辨上甚た困難を生じ候殊に來る十一月品評會開設候に付ては是又幾許の入費を要し候間事情御洞察會費延滯の諸君は迅速に御拂込み相成度此段特に謹告仕候也

明治廿八年十月　大日本蠶絲會

追て郵便爲替に御取組の節は拂渡局を東京神田郵便局に御取計相成受取人を東京神田區美土代町貳丁目大日本蠶絲會と御記入相成るべし、又通運便に托し現金にて御送付の節は配達賃必ず御拂込の事、若し郵便切手代用の節は必ず一割增しにて御送付なさるべし

大日本蠶絲會報第四拾號

●論說

◎米國機業の進步と我生絲の關係

大日本蠶絲會技藝委員　今西直次郎君

昨今我生絲の賣行は時々浮沈あるを免れずと雖も新絲以來其輸出額五萬個在荷二萬個以上に達して其賣價も亦例年に比すれば騰貴を來たし製絲家の利益差し少小ならざるべし想ふに本年我生絲の賣行其宜しきを得たるは歐洲諸國收繭の減少、歐米絹織物の好況等に原因するものにして我當業家の僥倖と云ふべし凡そ事物の盛なるときは人氣之に伴ふは世上の通理にして余輩も亦其機に投じて斯業の發達を切望して已まざるなり而り然れども從來我生絲の賣行に甘んじて叨りに多額の製造を設計するが如きは所謂永持せざるの恐れあるを感ずるなり近年我邦生絲の輸出額は十有餘萬個にして其過半は米國に輸送し製絲家も亦大に茲に注意すと雖も抑米國機業の發達は明治十年後に始りて其技術も亦佛、瑞、獨、澳の如く精巧ならず隨て粗太の生絲を用ひ來り且つ工賃の高貴なるが爲め始終速成を主とするを以て是迄彼邦より我生絲に對し苦情を鳴らし專ら繰返の便利と荷物の一定に重きを置きたるは本

邦當業家の疾に熟知せらるゝ所なり我製絲家も亦彼の嗜好を慮りて繰返の便利と荷物の一定とに注目して怠るなきが如くなれども彼れ米國の機業は頗る長足の進歩をなし年を追ふて精巧の絹口物を使用するの傾きありて横濱其商館に於ても時々其注文に應ずる者少からず又最近の通信中在紐育濱國領事の報告を閲するに米國の機業は非常なる進歩にして歐洲に對して最早該業の常位を占むるに至れり其器械の改良に依て著しく之が擴張の一端を成し而して撚絲工場の如きは歐洲に於て一錘一分間の回轉二千五百回乃至四千回に過ぎざるも米國の如きは一萬二千回乃至一萬五千回の速力を用ひ時間と工費を省き該業經濟上最も見るべきものとす嘗て佛國の機業家が米國機業の實況を觀察したるとき米國に於ける仕事の速成に就ては一驚を喫したりと云ふ又米國は先年來カリホルニア州及其他諸州に於て養蠶を試み製絲に從事すと雖も其産額は僅少にして未だ需用に供するに足らず而して米國に使用する所の生絲は其半數日本より輸入し來れり又歐洲より米國に輸入する織物の高も年次增進すと雖も同國に於て最上精美の絹布を除くの外種々の衣服地を織製するに及んで歐洲諸國の機業は鋭爭の位置に立たんとするの現況に依るも其進歩の著しきを證するに足るべし云々

以上陳べたる如く米國機業の組織により且つ生絲取引の高大なるに隨て我製絲家も其荷數の多きに注目すべきは論を俟たざれども我生絲の適否如何を察するに種々の欠點あるのみならず前の報告に記載せる如く米國が年々精美の織物を製するの度と我生絲を製するの度と相伴はず是れ寔に我邦當業家の爲に痛歎する所にして今より其信用を回復すべき一問題なりとす着よ支那上海の製絲業は數年來歐式の器械を据付け初めヲヤーダンマセソン商會に於て二百繰内外の釜數を以て其業を試みしが年々好結果を得しより他の洋人も亦其業を起し昨年に於ては二百五十人繰以上の工場數九箇所に達し尙ほ新營中のもの二箇所釜數合計三千五百個に及び而して其製絲は支那内地の生絲に比して二割五分乃至五割の高價を占むると云ふ又近頃石製絲場に於て製造したる生絲を審察するに裝束上多少の欠點あるを見たれども其光澤の一定と云ひ繰維の齊整と云ひ殊に顏篩の如きは殆んど皆無にして將來我生絲に對して實に恐るべきの感を懷かしめたり我敬愛なる製絲家諸君宜しく我一大花主なる米國機業の實況を觀察し又清國製絲業の現情を顧み此際我製絲家の一大方針を定むるは刻下の急務なりと信ずるなり

◎世界の蠶業

大日本蠶絲會技藝委員　橘本重兵衛君

國家の隆替は殖産の消長に基因す盖し殖産の消長は直接國家貧富强弱の因りて以て岐るゝ所の唯一の命脈管たればなり方今内軍備の充實より外國防上の大計に至るまで將に爲すべきの事業にして而も最も焦眉の急に促されつゝあるもの百にして足らず是に於て乎近來財源討究の談漸く喧しく區々の議堂々の論一に殖産の發達を計りて國力增進の希冀たらざるはなし吾人身亦殖産界の班を汚すもの將に孜々營々進んでは國家般富を計るの重任に膺り退いては殖産發達上に充分の奏功を期するの覺悟なかるべからず是れ吾人が敢て此編を草して薄か大方の瀏覽を汚さんとする所以なり先つ輸出重要物産たる

生絲のことに就きて曰はん

生絲は輸出品の首座を占むるもの其價格に於て其數額に於て將た其將來の希望に於て實に無二の物產たり方今一箇年產額約五百四十萬斤、價額四千萬圓に達す而も尙ほ遞次增殖せんとしつゝあるものゝ如し是に於て乎近來一種の杞憂論者を輩出し漫に放言して曰く我邦蠶絲の大勢尙ほ累年增殖することなるべし卒然其增殖を望むときは甚だ喜ふべきの現象の如くなるも甞恐る將來其增殖の極今日の數量に倍蓰することあらんか其增殖は徒に販路閉塞を告ぐべき所の媒介たらんのみ云々と成程論者の說又一理なきに非ず要する所供給却りて需用に超過するの日あらん云々の意なるべし借いかな未だ其一を知りて其二を知らず我輩は只其言の無稽なると其論據の薄弱なるとに驚くあるのみ左に其妄を辨ぜん開港以來茲に三十餘年間歐亞二洲の蠶業上の大勢が如何に其優劣を角しつゝ來りたるか約言せば既往の成蹟は實に將來の大勢を卜するに足るものなりとするときは先づ左に貿易開始當時よりの概況を述べて以て論者の妄を辨ずることゝせん維新以前は勿論明治元年より五年頃に至るまでは金銀貨の差違殆ど同一位にありて銀貨百弗に對する金貨の價位は平均百一弗に相當する割合なりし當時歐洲大陸諸國の蠶業上の大勢は如何なりしか恰も昇天の勢を以て頓に隆昌を加へつゝありしものが同六年頃より反對に金貨の騰貴となり爾來二十餘年滔々奔流の勢を以て其勢を助長し昔時銀貨の百弗に對して漸く百一弗の價位にありし所の金貨が今は却りて其倍數即ち金貨の百弗は銀貨の二百弗に相當することゝなれり金貨國たる歐洲諸國の工業殊に蠶絲の如き常に東洋諸國の競爭を受けて世界の貿易場裡に輸贏を爭ひつゝあるものゝ如き金貨の騰貴により漸く價格の不廉を招き大勢次第に振はざらんとするに引換へ東洋諸州即ち銀貨國たる我邦の如き駢入漸く膨脹して遞次歐洲絲需用の範圍內に侵入して日に其供給の區域を蠶食しつゝあるものゝ如し

左に歐洲諸國にて最近五箇年間產額の數量を擧ぐれば（一斤百六十匁）

千八百九十年	八、九〇四、〇〇〇斤	千八百九十三年	一〇、〇七八、〇〇〇斤
同　九十一年	七、八三〇、〇〇〇	同　九十四年	九、七三九、〇〇〇
同　九十二年	七、四一三、〇〇〇		

以上の如く單に統計の上より見て決して退步の傾きなきものゝ如くなるもこは是れ將來我邦蠶絲業者の決心如何によりて容易に我邦の蠶絲をして彼蠶業家を塵滅し盡し代ふるに我蠶絲を以て供給し得ることを得べし試に思へ佛國にて蠶絲百斤を製造するに就ては養蠶の當時より製絲までの費用一切を合算するときは凡一千百七圓を要するとかや（內一基に付十法六十參の奬勵金を得れば夫丈は安直となる割合なり）伊國にて同百斤を得るに九百四十三圓を要す顧みて我邦は如何平均百斤の製產費は殆ど彼の半額五百圓を以て事足るべし如何に比較的優等の蠶絲を產出すと雖も其利害禍福固より同日の談に非ず然れば佛の如き伊の如き如何にして此比較的不廉の絲を販賣しつゝあるか後段更に詳悉すべし

又開港以來我邦の蠶絲が如何に沿革を經つゝありしか換言せば既往の事蹟に徵して將來を推し讀者をして知了し易からしめん

年次	收獲數量	百斤に付平均價格	爲換相場	金貨換算直段
安政六年	四八七、六二五斤			
萬延元年	八一二、七八〇			
文久元年	九二二、四二四			
同二年	一、四一四、九一四			
同三年	一、二九四、七一九			
元治元年	一、三四三、一六四			
慶應元年	九四一、六〇二			
同二年	一、一〇一、五四六			
同三年	一、〇〇〇、〇一七			
自明治元年至五年	合四、五六五、六〇四	六一八、八八	一〇一、〇〇	六二五、〇〇
自同六年至十年	合六、九一〇、七七三	五七七、三四	九七、三〇	五四九、九二
自同十一年至十五年	合九、二三五、二二九	五七六、二二	八六、二〇	四九六、七〇
自同十六年至二十年	合一三、四一五、六七三	五六九、〇五	八四、四〇	四七九、二〇
自同二十一年至二十五年	合二一、五四二、四二二	六一五、三四	七七、二〇	四七五、〇〇
二十六年度	三、七一二、二一五	七五七、七七	六二、〇〇	四六九、七〇
二十七年度	五、四八四、〇五九	七一七、六〇	五一、〇〇	三六六、〇〇

以上の如く逐次產額を增加し來りたるのみならず金銀の差より漸々價格の上騰を來たしたるを知る然るに之を金貨に換算するときは却りて累年著しく低落し來たりたるものにして假に昨二十七年度平均價格七百十六弗六十仙は實に明治の初年に比較し來り凡呼直に於て百弗の高直なりしにも拘はらず之を金貨に換算するときは寧ろ二百五十餘弗方安直となる割合なり左れば空前の高直なりと思ひしは反りて空前の安直たりしことを發見し得ざし而して我邦の蠶絲は此邊の價値に於て尙緯々餘裕を存し之に反して歐洲の蠶絲は漸次欠收支の相償を得ず日に月に其減退を見るべし數理によりて灼々たるの事理たるべし是れ我輩が前記の杞憂論者を排斥して我邦の蠶業が現時の三倍即ち一千五六百萬斤（凡一千萬基）の產出をなすも決して販路の閉塞を患へず益〻產して益〻辨ずとなす所以なり蓋し前記の歐洲產絲を驅逐すべきことは洵に容易の業として我輩は更に我國の新蠶業が此補充を爲すに足るまでの程度に於て益〻販路の好望たるべきを信じて疑はざるものなり加之頻年絹布流行上の大勢は日を逐て隆昌を來たし昔時は纔かに僅少なる上流社會の裝飾的玩弄物に過ぎざりしものが今は却りて一般社會の嗜好に投じ最も廣き區域の需用者に最も必要なる日需品となれり是近來最も絲量の僅少なる即ち薄樣絹の賣買鬱なる所以なり殊に我邦の如き累年製絲上の技術著しく進步し之を十數年以前の物と比較すれば品位に於て凡百斤百五十弗方上位に居ることなるべし是吾輩が歐洲大原に侵入して毫も畏るゝに足らずとなす所以なり

生絲は未製工品なり此未製工品は如何なる方法順序によりて既製品となるべきものなるか再言せば如

何なる方法によりて織物となるべきものなるや其織立をなす以前に於て一度び撚上ぐるを要す伊、佛、西、米等の諸國に於ては原料生絲購入より一切の加工自國のなすところなれども獨逸のクレヘルド露國漦斯科等の諸州に於ては全然原料生絲を購入することなくして半ば加工したる生絲即ち撚絲となしたるものを佛、伊等の工商より買入て織上ぐることゝせり左れば此地方にて賣捌くべき蠶絲は悉皆撚絲たることを忘るべからず

假に佛、伊等の生絲は高直なりとするも彼は比較的優等の織物を製出することなれば自國の使用には充用し得べしと雖も之を以て半進化の工業國たる撚絲輸入國へ販賣し得べからず蓋し此場合には重に我邦の生絲が彼等の手により最も過當の撚上料を收められつゝ供給しつゝあることゝ知るべし今歐洲の撚り賃平均壹斤に付六法七十五參とし積算するときは百斤の撚上料は實に貳百七拾圓を要す假に我邦の產絲三分の一が彼等のために此撚絲再輸出をなされつゝあるものとすれば彼等が從來收得しつゝありたる所實に一箇年五百萬の撚り賃たりし豈に僅少なりと曰はんや今假に之を我邦にて撚り上ることゝせんか百斤の撚上料僅かに七拾圓乃至八拾圓にて事足るべし頻年膨脹なしつゝある所の蠶絲にして而も直接販路の擴張を計らざるべからざるものなるをや此撚上料低減の結果は直接原價の低廉となり伊、佛の撚絲を直ちに排斥し得べきは勿論にして尙ほ進んでは販路擴充の資たるべきや疑はず苟も意を蠶業に用ふるものゝ須らく考究すべきの事柄なりとす然り米國の如き亦佛國より伊國に通ずる關稅の如き撚絲としては一種特別の稅目あり從ひて原料生絲に比較し多少苛重の課稅を免るべからざるも前顯吾輩の大に販路擴充せんとするの區域は佛、伊、米の進化工藝國に非ずして寧ろ半進化工藝國たる露、獨即ち原料生絲と同稅種たる邦國たるをや而り其半加工輸出の法に至りては吾輩又定見あるあり乞ふ他日を期せん

●寄書

◎秋蠶種催青試驗の顚末

長野縣會員　田中眞太郎

微粒子の慘毒を蠶業社會に流し之が爲め當業者をして不慮の失敗災害を蒙らしむるは常に吾人の耳にする所にして彼處に撲滅の策を講ずるものあれば此所には蠶種の改良を企圖するものあり蠶種檢査取締規則となり今や蠶種檢査方案となり各〻其途に奔走するものあり蠶業社會も亦多忙なる哉

微々たる一粒子の害毒恐るべきは言を俟たず殊に夏秋蠶にありては此毒を含有する春蠶よりも多く當業者の失敗も幾分か他の源因ありと雖も目下の現狀を見るに多くは此微粒子の侵す所となり其れが爲め失敗の不幸に逢過せしむるもの十中の八九に居る是れ秋蠶種にありては時期の短きが爲め普ねく完全なる檢査を行ふ能はざるに起因するものにして已むを得ざることなりと雖も社會進步し益〻改良の域に進まば秋蠶種たりと雖も豈に檢査の普及せざるの理あらんや然りと雖も前にも述べし如く時期短き秋蠶種にしあれば完全なる檢査は到底養蠶家の爲し得ざることにして失敗の一大原因たる此病毒の撲滅に一大困難を感じつゝも之れを見すゝ經過するは已むを得ざるの事情とは言へ實に忍び難きこ

とならずや是を以て從來種々の經驗の末發生不整の蠶種を以て微粒子毒含有の兆候となし當業者も大いに此說に信を措きたり而れども余は發生の不整も一兆候とは信ぜしも亦他に據るべき兆候あるを信じ本年秋蠶種框製を飼育し之れが試驗を行はんと欲し先づ蠶種の催青に就き注意を加へて之れを調査せしに實に微粒子毒を含有するものは無毒のものに後れて催青し其間三時の差を見たり之れ全く催青中に於て見たるの現象なり即ち有毒卵は發生の不整なるのみならず既に催青期に於て無毒卵より催青の遲きを驗たり

今左に之れが試驗の概況を述ぶ

八月廿二日產卵したる萬倍（黑虫）種の框製廿八蛾附一枚を取り顯微鏡的檢査を行ひしに內十五蛾は無毒にして十三蛾は有毒なりし此兩者卵子の催青より發生に至るまでの經過の比較は左表の如し

無毒卵及有毒卵比較試驗表

	無毒（十五蛾區）	有毒（十三蛾區）
產卵後（八月廿三日）	二日目	
仝上（八月廿四日）	七日目	卵面の凹み方は無毒と殆んど同一なりしが色澤は概して淡黃色濃なりし
仝上（八月廿五日）	八日目	午後六時頃に亟り漸く蟲を呈ぜり
仝上（八月廿六日）	九日目	午前十一時に亟り十蛾區眼付き十二時に亟り全區に及ぶ
仝上（八月廿七日）	十日目	午前十一時全面催青發生蠶は一頭もなし
仝上（八月三十一日）	午前九時殆ど全部發生	午前九時十蛾區は八分通り發生三蛾區は翌十一日目に發生したり

卵子面少しく凹み概ね淡黃色なりし

午後三時大概蟲りを呈す

午前九時に亟り全蛾區殆ど眼付き

午前九時全面催青三蛾區より蠶兒五十七頭發生

附言　眼付きとは實業者の通語にして卵中に蠶兒の頭部少しく成り外部より窺ふときは恰かも卵子に黑點を生じ眼を付けしが如き觀を呈する時を云ふ

右表の摘要を記せば左の如し

有毒卵の色澤は無毒卵に比し黃色を帶ぶるの度少しく濃なること

有毒卵は無毒卵より蟲り眼付き催青發生等に於て概ね三時間內外遲るゝこと甚しきものに至ては發生翌日に渉り其差一日に及ぶこと

此の試驗の結果によりて考ふるに從來實業者の唱へ來りし卵色の不齊にして而かも帶黃色に濃淡の別ある如き卵種は結果充分ならずとの說は恐らくは微粒子毒の寄生に係るより起るものならんか兎に角本試驗の結果に符合せしものゝ如し即ち一紙面の卵種の色澤に帶黃の濃淡ある如き夏秋蠶種は良好種たるを得ざるものゝ如し亦た蟲り眼付き催青等に於て不齊の觀を呈するは概ね微粒子毒の寄生より生ずるものならんか之等も從來經驗家の唱導說に暗合せしものゝ如し之れを要するに蟲りとは卵中に於て胚子發育の兆候を外部に現したる時にして眼付きとは前述の如く頭部の少部分形成せられたる時なり此間に於て有毒卵の後れしは蓋し微粒子毒寄生の爲め胚子の成熟發育等無毒卵に比し充分ならざるによるものならん

以上試驗の成蹟に依て之れを見れば催青の遲速は以て微粒子毒の有無多少を判し結果の豐凶を卜するを得んか當業者宜しく蠶種催青に注意して遲速整否を調査したらんには庶くは病毒の多少を豫知し器械的力を藉らずして肉眼上蠶種鑑定をなすの一助となすを得んか須く記して以て參考に供す

因に記す該試驗の如きは僅に一回の試驗なるのみならず僅々一種類廿八蛾の材料なりし故本試驗の目的に對し確乎たる斷定を下すこと能はず加ふるに原蠶の景況桑園地質の關係產卵當時の狀況天候溫度等直接間接に重大の關係ある項目を調査せず單に產卵後催青期に於ける の試驗なりしを以て此の成蹟に依りて夏秋蠶種の全般に論及する如きは爲し能はざる所なり而れども稍〻其一斑を窺ひ知るに足らんか讀者其れ此の意を諒せよ

◎宿繭籠の代用品に就て

栃木縣會員　内藤爲之助

蛾熟蠶見を宿繭せしむるや奥州に於ては簇を用ひ上武及予が地方等にては養蠶中使用せし竹籠を用ふ之れ一は蠶見飼育中狹小なる蔟坐を用ふるがため他に宿繭器を要するものか予が地方の如き角なる竹籠を用ふるに於ては之を宿繭に利用せざるは不經濟の甚しきものなり何んとなれば簇を用ひて宿繭器を作るには其工費一枚八厘を要し竹籠を以て島田マブシを掛け宿繭器を作るには其工費は簇を用ふるものゝ殆ど三分の一にて足れば なり然れども一の不利なることあり則ち蠶見の宿繭するや飼育中に要せし籠數より之を倍數にせざるべからず然れども竹籠は簇の如く廉價にて購求すること能はず又廣き貯藏場を要する之れなり故に大概普通養蠶家にありては唯一時宿繭にのみ用ふる竹籠を供へ置くものの少なく多くは飼育中と同樣なる蠶數を一籠中に宿繭せしむるか若くは其不足を告ぐるに至れば戸障子草靖籠等手當り次第宿繭の用に供するのみならず往々現發揚げと稱し竹枝粗桑或は蓆蠶殿を床上に立て熟蠶を入れつゝ順次後方に退き以て宿繭せしむ此の如き取扱たるや折角數旬日勞苦を重ねて漸く好結果を得んとする蠶見をして同功繭汚繭等の多きを出し不時の失敗を招かしむ而して豐作の年にありては宿に同功繭汚繭等の多きを出すのみに止り敢て甚しき妨げなしと雖も凶歳にありては斃蠶を取除くことと能はず僅に結繭せしものきでも穢し搔取の際非常の困難を來たすことあり故に年々歳々右等の法に依ること能はず是非共宿繭器は丁寧に爲さゝるべからず然れども前陳の如く竹籠の多數を備へ置く能はずとせば他に良法を求めざるべからず稀には竹籠茅籠及び俵筵の如きものを造り置きこれを用ひて宿繭せしむるものありと雖も之れ又費用の多きを要するか若くは不便を免かれずして未だ一般に行はるゝに至らず宿繭に用ふる竹籠代用品の良好なるものなきに苦しむ久し茲に於て是非共恰當なるものを見出さんと欲して留意し本年始めて一の輕便にしてまかも些小の費用を以て作り得べき竹籠の代用品を案出せり其形恰かも梯子の如くにして兩端を屈曲し繩を張り島田マブシを掛くるものとす而して其材料は悉く竹を用ふるを便とす今壓三尺五寸横二尺五寸の竹籠代用品を作らんと欲せば竹を四尺五寸の長さに切り之を巾一寸五分位に割り中央に一箇所中央より左右一尺七寸五分の所に一箇所つゝ孔を穿ち而して兩端は五寸づゝ燒きて折曲げ一は同寸法のものにして唯左右の兩孔をのみ中央の孔は穿たず右二本の竹を以て縱となし梯子の横木の如く用ふる竹は二尺五寸に切り縱竹と同じく一寸五分位に割り兩端より五寸づゝの所に孔を穿ちたるもの三本を作り縱竹と横竹とに穿ちたる孔を貫せ麻繩を通し上下に結節を造り疊み得る樣にす中央に用ふる横竹の一孔には長さ九寸寸りの麻繩を附け置き縱竹の孔を穿たざる中央の所に繩結す然るときはゆがまずして取扱ひに便なり又其の麻繩を解くときは直ちに疊み得べきものにして數百枚を貯ふるも廣き場所を要せず頗る輕便なり加之竹籠を用ふる養蠶家は大概蠶箔に倍蓰せる孤の數を供へ置くは通常なれば籠代用品を擴げ孤を敷くときは直ちに宿繭器に供すべく別段簇等を用意するの要なく蠶の孤の流用を得て大いに便益なり又縱竹の折曲し端より繩を緊張するときは手固くして取扱ひ能きのみならず斃蠶等多き場合には右二條の繩を兩人にて搖ぐるときは容易に孤扱きを爲すを得て竹籠を以て造りたる宿繭と少しも異なることなし大方諸君今や竹伐の期に當り之を製造し置き明春養蠶の終期に至り其の便利なることを試用せられよ

◎蠶種貯藏庫成蹟に就きて

埼玉縣會員　日本蠶種貯藏株式會社

抑〻本社が蠶種貯藏庫を設立せし所以のものは漸次本邦蠶業の發達は言を俟たずと雖も未だ以て充分の進歩と云ふに足らず今や全國收繭の平均を見聞するに蠶種精立の量其成繭と權衡を得ず豈蠶業上の大憾と云べし之に因りて本社は鋭意其原理を探究するに蠶種の保護を怠りたるの原因に外ならず如何となれば近來蠶種の檢査緻密にして精撰を盡せしにも係はらず收獲不充分なるは畢竟蠶種を放任して適當の保護をなさゝる所以なり夫の有名なる伊佛兩國に於ては撰種及貯藏は蠶業中の一大要務となし毫も之を忽諸に付せざるなり故に本社は爰に注目し貯藏庫を設立するの計畫をなせり蓋し貯藏の事業

たるや曾に蠶種を庫内に納むるのみならず保護の點に於ては第一に蠶種を季候の激變に感ぜしめざること尤も肝要とす因りて其保護の順序を三期に分ち第一期は蠶種を激冷に劃らしめざるため毎年九月十五日より翌年一月十日まで適温度を有たしむるの扱室を設け之れに藏置し若し時候不順にして冷度に下降するときは炭火を利用し且つ諸般の取扱を以て激冷を豫防而して其二期は蠶種に熱度の暴騰を感ぜしめざるが爲め一月十日より九十日間貯藏庫内に納む庫内には空氣を送入する鐵管を布き絶えず空氣を交換せしめ若し不時の激熱を來たすが如き場合には庫外氷室に設けある鐵管を通過して空氣を冷し庫内を送入す爲めに庫内の空氣は忽ち冷度に下降す又無風にして庫内の空氣淀滯の慮りあるときは起風機を回轉して庫内の空氣を變換せしめ且つ石灰を以て庫内の濕氣を吸收する等夫々自在に豫防するの具あり其三期は以上の適度を有たしめたる蠶種を出庫し完全に催青して委托者に還付す斯の如く注意を盡し蠶種に純性の順期を惹らしめざるの保護を務むと雖も貯藏庫設立の當初は其功蹟の何たるを問はず徒らに誹謗するものなき能はず然りと雖も本社は屈せず撓まず貯藏の事業に汲々從事すること殆と三周年其間種々の障碍を來たし貯藏完全せしも衛害のため飼育の結果を見る能はず無効に屬せしものあり或は飼育の未熟より來りたる遲作を貯藏の責に誹ふるあり實に千辛萬苦して漸く昨今の兩年に至り順調なる成蹟を見るを得たり其最も著しき利益を發見せしは收繭之れなり正蟻量四匁より拾四貫目以上の良繭を收め而して其成繭たるや絲質善良にして絲量多し之を非貯藏種に比較するときは殆と一倍の收益と云ふべし斯の如く良好の結果を收むるは即ち蠶兒の强健に歸因すべし苟も蠶兒の健全を謀らんと欲せば貯藏種の飼育より優るはなし何となれば貯藏種は不順不定の季候に感ぜしめざるため依然として本性を變せず期順を惹まずして徐々に發育し而して蠶病を發するの患なし故に其收繭に至り好結果を見るは決して怪むに足らず之れ連年の經驗に於て明かなり稱來貯藏の利益あること超々四方に喧傳し本年の如きは遠く一府十六縣に及び貯藏を委托する者陸續增加するの氣運に達せり若し該事業をして全國に波及するときは國家の利益又偉大なりと云ふも過言にあらず本社が計畫せし貯藏事業の成蹟は概ね斯の如くして益々盛大ならしむるの傾向なり

◎我邦蠶業者の一大注意

大日本蠶絲會技藝委員　橋本重兵衛

方今世界の蠶業國として先づ指を屈すべきものは日本、伊太利、支那なりとす而して數量上より云ふときは支那を第一とし、伊國、日本之れに次ぎ其產絲の品位上より云ふときは伊國實に最優位に、次に日本、次は即ち支那とす偖此三種の蠶絲は如何に歐米諸洲に需用されつゝあるか知らるゝ如く織物なるものは其組織に於て殊に經絲を撰ぶの常にして緯絲は差し比較的に劣等の蠶絲を使用するものとせり左れば伊國產の如き優等品は悉皆經絲として需用さるべく之に反して支那絲の如きは全然緯絲たることを免れず殊に近來社會流行の嗜好に應じて絹綿雜種若くは絹毛交織等の諸種の需用又盛んなりと雖も其經絲に至りては常に蠶絲を需用するの習ひなれば伊國產等の蠶絲の需用益々盛んなるに反し緯絲たる支那絲の如きは單に純粹絹物の外需用の途なければ動もすれば供給たゝに溢れんとす是ぞ實に其價格に於て非常の經庭を生ずべき最大要點なりとす日本絲の如き恰も其中間に位して經緯並び用ひらるゝものゝ如く從ひて我横濱に於ける生絲市場の一昂一低は實に此兩者の相場浮沈の依りて岐るゝ所たるべきに再言せば横濱の市場は實に全世界生絲市場相場昂低の主動者たるべき資格を具備せるものなるにも係はらず未だ其事なきは如何畢竟多年の陋習容易に桃源場裡の夢を破らず進んで海外の顧客と直接取引するの勇に乏しく擧げて居留外人の隨使に供したるため直接海外市場の注意を惹くこと薄きによると一は實際の狀況不案内なる所より能く其嗜好に投じて製造すること能はざるによるのみ洵に堪へ難き次第にして吾輩の多年憤慨措かざる所なり殊に近來製絲上の技術著しく進歩し來り單に理化學的の眼孔を以て看察を下すときは往々完美の製品を出し殆んど其纖緯に就きて瑕瑾を留めざるは能く伊國絲を凌駕すべしと思惟するに足るものの尠なしとせざるも如何せん學理上の良品必ずし

も實際の嗜好に適せず折角の苦辛もそれに伴ふ所の報酬を得ざれば空しく徒弄的美術たるに過ぎず呉〻も苦心しき次第なれどもこは一に海外不案内の罪に坐するのみ當業者たるもの大に奮勵し外は以て海外市場の嗜好を究め内は以て益〻製絲上の注意を周到ならしめ以て大に前途に多望なる而も價値の高直なる而も最も需用の廣濶なる繰絲供給に當るの考案なかるべからず竿頭更に一歩を進めて吾輩の所見を陳ぶるときは寧ろ全然撚絲として直輸出するの優れるには若かず左に其希望を陳べん

方今我邦蠶業上に於ての一大勁敵としては殆と萬口同音伊國を指すことならん而りてこは現在の形迹に就きて之れを云ふのみ若し吾輩をして之を曰はしめんか其過去の產額に就きて其未來の推測的看察に就きて寧ろ今日の劣等國なる清國を以て之に答へん蓋し伊國の如き發達殆と其極に達し此上の隆盛を望むべからず清國は恰も正反對に將に未來に於ける一大勁敵なりと云ふを憚からず單に今日清國蠶業上の有樣をのみ喋々して反擊を試みんとする輩の如きに至りても決して獨り世界の風潮外の逆流に棹して永く桃源に夢死することを允さゝるは史を讀むものゝ知る所たり左れば多年一日大に迷夢覺醒の日は即ち正に我蠶業上に由々しき勁敵を現出すべきの時なることを記憶し置かざるべからず蓋し支那は面積四百萬方里其產額に於て其人種の一種特異なる勤儉なるに於て將に勁敵として愧ぢざる所の價値を有すればなり今や想像は益〻吾曹をして信を措かしむるに切ならしむるのみか偶〻今春に於て締結したる馬關條約は彼が國體の總てに對して將た彼が工藝の總てに對して殊に此有利の蠶業上に一大刺擊を與へて眼光忽一轉其進化に於ける速力の程度に非常の鞭撻を加へつゝあるを疑はず何を以て之を云ふ他なし新たに港灣の開放に加ふるに内地の開放を以てす即ち此開放こそ實に彼等が腦裏を刺擊啓發する所の唯一の導火線たればなり試に我邦人をして完全なる製絲器械を携へ彼の江蘇浙江省其他蠶業隆盛の地方に移住し製絲に從事するとゝせよ之を我邦の製絲業に比較計量して實に夥しき利便を

感ずべきや疑はず先づ其產繭より云はんか從來僅に粗惡劣等なる蠶絲の原料に過ぎざりしものなれば其價格に於て實に甚しき廉價なるのみか其購買に就ても寸毫の競爭を受くべきことなく其著業の簡易なるに加へて其原質を吟味して之を我國產のものと比較して決して一歩も讓るべき謂れなしと云ふ之を今日我邦の製絲業に比して其難易禍福同日の談に非ず一獲萬金の巨利を博することを得べし吾輩の臭〻も保證する所なり只恐る將來此種の企業清國内地に勃興するの日は實に我蠶業上に一大勁敵を現出するの日なるべきを幸ひ我邦の如き未だ此種の企業談を聞かず自働的進化を望むべからざる國體とし云へば他働的に我邦人の刺擊を受けざる以上は決して發達すべき望みなきが如くなるも如何せん彼の最惠國條款に依り一切此特權を享受均霑すべき歐米人の如き何は脩て措き營利の點より此計畫をなすことならん吾輩の最も杞憂に堪へざる所なり記せよ一度び此企業成就の日は蓋し清國内地に此種の事業振興し亦呉下の阿蒙を以て目すべからざるの日に到着すべきや亦遠きに非ざることを之を要するに我邦たるもの當に今日に於て豫め之に應ずるの日に到着すべきや亦遠きに非ざることを之を要するを爲す如何他なし前節に所謂撚絲輸出の一法あるのみ吾曹が大聲疾呼天下當業者の注意を促さんとする所以實に之に存す

曾ても述べし如く原料生絲乃ち未製品より之を撚絲（未製工品）と爲して而して之を既製品即ち織物となすに至るまでの一切の加工を自國に於て成し得べき邦國は實に米、佛、伊等の數少國に過ぎず現時織物產出の隆盛を以て目せらるゝ墨國莫斯科、獨逸クレヘルド其他の如き決して此加工の總てをなさず否な成し能はざるか左れば此地方に於て需用する所の蠶糸は經絲となく凡て撚絲たるものは伊、佛工商の手により加工輸入せらるゝの常にして其數量莫大のものたるにも拘はらず全然撚絲即ち伊、佛工商の手を經るものなることを忘るべからず而して以上の工商等が如何に其加工料即ち單に撚賃として收むべきものを獲得しつゝあるかと云ふに凡我百斤に對し平均貳百七八拾圓前後なりと云ふ過日も論述せ

し如く其佛、伊の工商が凡何程の數額を此手段によりて輸入しつゝあるや未だ詳細の統計こそなけれ現に彼等が我邦より購入しつゝある所の生絲にして伊、佛等の諸國に輸出すべきものゝ内凡三分の一以上は此種の手段によりて再輸出すべきものなるべしと云ふ多年直接未製品たる生絲を購入して加工せざる結果は今日彼等が組織する所の一般の工場全く撚絲にあらざれば使用し得ざる悲境に陷り如何に此過當の撚賃を貪ると雖も絶對的に使用せざるを得ず僅に自國の蠶絲のために此過大なる賃銀を收めらるゝに就いて尚ほ且つ隔靴搔痒の感に堪へざるに搗てゝ加へて彼等は尚ほ自己の利益を謀らんとてや上位の品には伊國産の名稱を附し偶〻劣等の蠶絲に附するに日本絲の名を以てす左れば彼等は需用しつゝありて却て日本絲の眞價を知らず又眞相を解せず我邦蠶絲相場の變動が直接彼等の市場に痛痒を感ぜしめざる亦故なきに非ず而して是等地方一帶の將來に就ては實に唯一無二の最大需用地にして向後我蠶絲顧客の無盡藏たるを疑はざるも到底今日の儘に放任して決して永く其需用者たることを望むべからず否な其伊、佛の工商の毒手に罹り終に此顧客を失することなきや未だ期すべからず左れば我邦の當業者たるもの此際進んで此方面の地域に對し徐々に直輸貿易を開始し現時伊、佛工商の手に成る所の撚絲業を我邦に占有するの工夫こそ實に唯一の良策たるべし況や其撚賃の如き彼に比して非常に廉に百斤僅に七八拾圓にて事足るべきをや彼等が實に蹂躙しつゝある所の同市場は茲に我掌裡に歸し彼等をして始めて我蠶絲の眞相を知らしむると同時に益〻其販路の擴張期して疑はず況や將來當に來るべき清國の競爭を未萌に防ぐに於て實に唯一の綢繆策否な膨脹的進取の策なること蓋し吾輩の信じて疑はざる所なり

●統計

◎八月中生絲屑物輸出數量元價及收稅統計（大日本外國貿易月表に據る）

種目	數量	元價	收稅
生絲	一、〇七八、六七二斤	八、八四二、〇一六、四三〇円	二五四、八三六、四一四円
玉繭絲	四〇八	一、四二八、〇〇〇	二五、七〇四
屑絲	七九、二六九	五七、二九一、七八〇	一、八七二、七五五
真綿	四八、六九五	四九、三二七、五〇〇	六〇〇、二七六
蠶卵紙	一二一枚	三七、〇〇〇	八六六
合計	一、二〇七、〇四四斤 一枚	八、九五〇、一〇三、七一〇	〇二五 二五七、三三六、〇三〇

◎八月中絹布類輸出數量元價統計（仝　上）

種目	數量	元價
縮緬	二八〇瓩	三、二八三、〇六〇円
羽二重	二五、四六七	七〇七、一二五、〇一〇

他の諸絹布類	九、九五五
絹綿布類	三五四
絹布手巾	一、四八三、〇〇〇
絹製品類	二二八、八〇一
	六三六、一六二、九〇〇
	一二三、八七三、八八〇
合計	三六、〇五六
	二二八、八〇一
	一、五六八、九六二、六九〇

◎二十七年蠶絲眞綿蠶卵紙產額

昨二十七年に於ける全國生絲、屑絲、眞綿、蠶卵紙の產出高は左表の如し（農商務省の調査に據る）

府縣廳	製絲戶數 製造所	製絲戶數 自宅	生絲 器械取	生絲 其他	屑絲及屑物	玉絲	眞綿	蠶卵紙 製造戶數	蠶卵紙 製造枚數
東京	二四	一四、〇三二	六、三五三	二四、五五五	五、六五四	三、四三一	一、六一	一、四〇	七、九九九
京都	三三	一四、五七二	一四、六七二	一、四〇三	四、三〇〇	二、六二〇	九六八	六六六	五、一一三
大阪	一三	四〇	二四一	四六六	一、六一三	一、四〇	九五	七一	一、四〇
神奈川	四六	一四、六六六	六、六六六	一、八一六	四、六六六	一、〇六六	三、九一	一、四〇	四、六六六
兵庫	九五	一〇、八六四	一四、三六六	一、八六四	一、四〇	三、八一〇	四、一三〇	一、四〇	一、四〇
長崎	一	一、〇八一	八六	一、四一	一、三	八〇	九一三	六七	一、〇八一
新潟	九	八、二六六	六、四〇二	一、六一三	一、六八九	一、八六	一、四〇	一、四〇	一、四〇
埼玉	一〇	一〇、九九九	六、六六六	四、四〇六	一、九一四	四、九四〇	一、六六六	一、四〇	一、四〇
群馬	四	一、四四	三、一四〇	一、四六三	一、四八一	一、四八	一、四〇	一、四〇	一、四〇
千葉	一	一、六九	一、六九	一、四〇	一、四〇	一、四〇	一、四〇	一、四〇	一、四〇
茨城	八	一、一四	八一四	一、〇七	一、六一	九九	九七	九五	一、六八
栃木	一四	一、四〇七	六、八四	六六六	九五	六六	六六	四〇	四、六七三
奈良	八一	八八	一、四〇	六八一	一、四	七一	一一	四三	三、四四六
三重	八	一、七四四	一、六四	六六六	一、六	七六	六六	八〇	三、三六六
愛知	一一〇	三、三九	六六六	六六六	四、四四	四、四四	四六	四六	九、四七
靜岡	三三	一、八三	六六六	六六四	四六	四六	四六	四六	九、四七
山梨	一四六	一、八一三	三、四四	一、三三	二、四一	二、四一	二、四一	二、四一	三、九一六
長野	一四	一、六八三	六六六	六六六	二、四一	二、四一	二、四一	二、四一	六、六六
滋賀	一四	四、七四〇	四四〇	四、一六	一、四〇八	一、四〇八	一、四〇八	一、四〇八	四、四四
岐阜	八六	四、七四〇	四四〇	四、一六	一、四〇八	一、四〇八	一、四〇八	一、四〇八	四、四四
長野	八六	三、四九九	一、八六	一、六八	一、四〇七	一、四〇七	一、四〇七	一、四〇七	一、四〇七
宮城	一九	一、四三	六、八六	四、六六	一、四〇七	一、四〇七	一、四〇七	一、四〇七	一、四〇七
福島	四四	四、四四	一、一四	八、四〇	一、四〇七	一、四〇七	一、四〇七	一、四〇七	一、四〇七
岩手	四	八、九四	四、九六	一、四〇	一、四〇七	一、四〇七	一、四〇七	一、四〇七	一、四〇七
青森	一一	四四一	一四	一、四〇	一、四〇七	一、四〇七	一、四〇七	一、四〇七	一、四〇七
山形	三六	一、六九	一、六九	三、一一	一、四〇七	一、四〇七	一、四〇七	一、四〇七	一、四〇七
秋田	八六	一、一四	六六	一、一六	一、四〇七	一、四〇七	一、四〇七	一、四〇七	一、四〇七
福井	四四	一、一四	一、一四	八四	一、四〇七	一、四〇七	一、四〇七	一、四〇七	一、四〇七
石川	七一	四、四九	一、〇四九	一、〇〇	一、四〇七	一、四〇七	一、四〇七	一、四〇七	一、四〇七
富山	一一〇	一、九九	一、六九	一、六九	一、四〇七	一、四〇七	一、四〇七	一、四〇七	一、四〇七
鳥取	四六	一、四〇	九四六	一、四四	一、四〇七	一、四〇七	一、四〇七	一、四〇七	一、四〇七
島根	四四	一、一四	一、一四	一、四〇	一、四〇七	一、四〇七	一、四〇七	一、四〇七	一、四〇七
岡山	四六	一、六一	一、六四	四六	一、四〇七	一、四〇七	一、四〇七	一、四〇七	一、四〇七
廣島	三〇	一、四一	一、四一	四六	一、四〇七	一、四〇七	一、四〇七	一、四〇七	一、四〇七
山口	一一	一、六一	一、六一	一、六一	一、四〇七	一、四〇七	一、四〇七	一、四〇七	一、四〇七
和歌山	一六	一、八七	一、四九	一、六八	一、四〇七	一、四〇七	一、四〇七	一、四〇七	一、四〇七

◎生絲屑絲類及眞綿產額累年比較

	生絲	屑絲及屑物	計	眞綿
二十三年	八四三、二七二瓩	三二〇、〇九九瓩	一、一六三、三七一瓩	六二、五三五瓩
二十四年	一、〇八九、四二二	四二六、四〇九	一、五一五、八三一	五四、八〇三
二十五年	一、〇九六、〇八八	五二二、五四四	一、六一八、六三二	五七、一二一
二十六年	一、二三三、五五四	五四一、二六七	一、七七四、八二一	五六、九五〇
二十七年	一、二九六、七八三	五九〇、八〇一	一、八八七、五八四	五四、二五七

◎最近五ヶ年生絲產出高及海外輸出高累年比較

年次	內國產出	外國輸出 數量	外國輸出 價格	產出と輸出數量差	百斤に付輸出價額	產出百分比例 內國存留	產出百分比例 外國輸出
二十三年	五、二七〇、四五〇瓩	二、一一〇、三一五瓩	一三、八五九、三三八、八〇	三、一六〇、一三五瓩	六五七圓	六〇	四〇
二十四年	六、八〇八、八八八	五、三二五、一四八	二九、三五六、三三八、七三	一、四八三、七四〇	五五一	二二	七八
二十五年	六、八五〇、五五〇	五、四〇六、八五六	三六、二九九、七四三、六一	一、四四三、六九四	六七一	二一	七九
二十六年	七、七〇九、七一三	三、七一二、二一三	二八、一六七、四一一、一〇	三、九九七、五〇〇	七五九	五二	四八
二十七年	八、一〇四、八九四	五、四八四、〇五九	三九、三五三、一五五、六二	二、六二〇、八三五	七一八	三二	六八

●問答

◎養蠶に就き質問

宮城縣遠田郡北浦村
大日本蠶絲會通常會員　內藤長右衛門

(一)甲者七十度乙者八十度の標準にて蠶兒を飼育し同給桑量を以て同量の繭を收穫し得るや但し給桑回數、濕度、擇桑後給桑までの時間の長短其他の方法は異にするものとす

(二)前の甲者と乙者とは其繭質及絲繭に差異なきや

(三)天然育は前二者に比し其損益の諸點及收繭の數量、性質等明細の敎示を仰ぐ

答

大日本蠶絲會技藝委員　松永伍作

(一)蠶兒を飼育するに華氏七十度を以てするものと八十度を標準とするものとは變化の成長日數に甚だしき長短あるものなれば兩者同量の收繭は期し難かるべし而して氣候の如何に由り甲者の收繭多くして乙者寡なき年なきにあらざるべきも春蠶を飼育するに八十度を標準とするものは溫度高きに過

ぎ危險の虞あり故に七十度を以てするもの安全なる良法と信ず

(二)甲乙幾分の差異あるべし而して結果の良好なるものは從て繭質佳良なるものなり

(三)天然育とは如何なる寒冷にも毫も火氣を用ひずして飼育する法を云ふか果して然らば氣候の適順なる年には豐熟を得て良繭を收穫すべきも不順の氣候に屢〻遭遇すれば概して不作すること多し故に數年間を通算すれば前項甲者の飼育法に比して損失多かるべし

◎桑樹枯死に就き質問

新潟縣北蒲原郡征岡村
大日本蠶絲會通常會員　山崎種城

高助魯桑の如き纖維弱き桑種を栽植するときは春季發芽に至り根際より枯死し之を刈り取るに新梢盛んに生長するも翌春復枯死す依りて大日本農會報告百五十三號船津氏百五十四號本多氏の應答により藁を以て樹幹を包み防寒せしも毫も効あらず右は植物生理上如何の變化により枯死するものなるや詳細なる學理を問ふ

答

大日本蠶絲會技藝委員
農學士　本多岩次郎

降雪多き地方に於て桑樹の枯死する原因は大凡地面上に堆積せる雪は常に地面に接するところに於て融解するなり是れ地温の融解を促すを以てなり故に桑樹の地面に接するところは常に地中の温と地上積雪の冷との接觸面なるが故に温の激變を受くる甚しきなり故に此所にある桑條は組織爲めに糜爛す是れ被害の重なる原因とす又右の如く積雪中と雖も地面に接するところは常に融解水を以て充たさるるが故に此滯水は樹皮の腐廢を來す是亦被害の一因なり

右の如き理なるが故に晩秋藁を以て樹幹を包むときは此害を免かるべきなり然るに此法を行ふて毫も効あらざりしは或は其被包の部は地面上にありて地面に接するところの防寒充分ならざるに因るならん乎

◎蠶病其他に就き質問

新潟縣北蒲原郡征岡村
大日本蠶絲會通常會員　山崎種城

(一)春蠶飼育中四眠起きでは經過甚だ善良なるも五齡三四日目頃より軟化病を生じ六日目頃に至りて止む第一次蠶事試驗成蹟十年報中軟化病試驗に依れば四齡中既に「ビブリオ」の寄生を受けたるによるを知る室内温度の高低蠶見强弱により差あるべきも普通「ビブリオ」が蠶躰に寄生する時は何日目にして病徴を現はすものなるや又十年報の如く寄生三日目位には必ず異狀を呈するものなるや

(二)四齡及五齡の蠶見壹萬頭に付き何立方尺の空氣を要するものなるや並に蠶室の大さ一間半の二間とし高さを七尺五寸となし東面二間の障子を開放して空氣を輸送し炭酸瓦斯を排除する時は天井に穿つ所の空氣孔は何箇にて何平方尺を要するや

(三)太陽の光線中紫色及紺色の光線白色の動物躰に直射する時は動物躰之を吸收し化學的變化によりて柔症を起さしむると云ふ説あり是れを蠶躰に應用し得るや否や應用し得るとせば是れを遮る物質及其色合を問ふ

(四)蠶見の强弱氣候の乾濕により多少の差あるも四齡及五齡に至り蛆害を受けたる時は幾日目にして兆候を現出するものなるや

(五)蛾檢査中發見する最小微粒子形寄生物は動植何性に屬する微菌なるや分科種屬、名稱の詳細を問ふ並に本會報告第二十號松永氏の應答に該寄生物を含有せる蛾は幾分か虛弱なりとのことなり是れを寄

生せしむる素因及誘因を問ふ

答

大日本蠶絲會技藝委員
農學士　本多岩次郎

(一)「ピブリオ」の蠶躰に寄生する場合にありて其蠶躰に病徴を現出するには早きは四五時間晩きは二週間前後なるべし

(二)四齢五齢の蠶兒一萬頭に付き何立方尺の空氣を要するやに就きては固より蠶室の構造室内空氣の流通等により差異あるを以て其確乎たる容積は之を知るを得ざるも凡そ蠶室の大さ一間半の二間とし高さ七尺五寸となすときは二萬頭の蠶兒を飼育するも敢て害あらざるなり而して此蠶室の天井に穿てる空氣扱は四隅に於て之を設け其大さ各一尺四方と爲すを可とす但是等空氣扱には開閉自在の戸を設くること肝要なり又天井の四隅に空氣扱を設けたるときは屋上に於ても其空氣を排除する氣扱を設くることに注意すべし

(三)太陽の光線(七色)中紫色、藍色及青色の部に於て化合線を含有せり而して此化合線によりて諸物躰化學變化を生ずるなり故に此化合線を遮らんと欲せば太陽の光線をして紅色の玻璃板を通過せしむべし此紅色玻璃板を通過せしめたる光線は決して化學變化を起さしめざるなり然れども此化合線を有する紫色、藍色若くは青色の蠶躰に射映して蠶躰の炎症を起すが如きは未だ見聞せざるところなりと雖も今日まで總ての蠶兒は終始此紫色等の光線を受くるも飼育其宜きを得ば完全なる成繭を爲すより考ふれば決して炎症を起すが如きの作用之れあらざるが如し

(四)蠶兒の桑葉と共に奪蛆蠅の卵子を食するときは此卵子の胃中に於て一時間乃至九時間を經て孵化し

て小蛆を生じ更に一時間乃至八時間を經て胃膜を破り之に接する神經球の内に闖入して後發育を遂げ蠶兒爲めに種々の病徴を呈するなり然るに寄生せる蛆は一蠶躰内に一頭に限らず或は十數頭同時に寄生するあり故に此れが寄生より生ずる病徴は寄生の部及寄生蛆の頭數によりて遲速あるべければ一概に之を云ふ能はざるなり尚詳細を知らんと欲せば佐々木博士著蠶之蛆害と稱する書籍に就きて之を見るべし此書は東京麻布區西町日本蠶業雜誌社及京橋區南傳馬町二丁目有隣堂に於て發賣し定價金二十三錢とす

(五)蚕檢査中發見する最小微粒子形寄生物は固より植物界に屬し芝栖科中分裂微科に隷するなり而して此寄生物は其名稱未だ明かならざるも一種「ピブリオ」の核なるが如し猶此寄生を受くる素因及誘因は未だ判然せざるなり

◎蛆害及蠶種製造に就き質問

廣島縣豊田郡岩谷村
大日本蠶絲會通常會員　龜井與一郎

(一)蛆は我國の國盗なるが二三年前より追〻增加し實に困難を極めたる次第なれども死籠りは申すまでもなく良繭と見へて繭内の蛹に蛆の寄生したるを繭の外面より見て蛹に蛆の寄生したるを鑑定するは如何にして宜しきや

(二)繭の光澤に依りて蛆の寄生を發見せらるゝや便利なる鑑定法の教示を乞ふ

(三)春蠶種を製造する室にて秋蠶を飼育するは製造したる蠶種に害あるものなるや又秋蠶良悪の結果に拘はらず春蠶室内にて秋蠶を飼育するは幾分の害あるものなるや是亦教示を乞ふ

答

大日本蠶絲會技藝委員
理學博士　佐々木　忠二郎

(一)死籠りには蛆害に罹りたるもの多し但し死籠りたる時には繭内の蠶兒蠶蛹の躰内に寄生せる蛆は蠶兒蠶蛹と共に斃死するものなれば死籠りより蛆を出すこと罕なり良繭にて蛆を寄生したるものは繭面より蛆の寄生せるや否やを鑑別すること難しとす但し良繭にても其兩極を指にて摘み絲層薄く容易に壓し潰し得べきもの其他繭の厚みに厚薄あるものは假令其繭内に蟄せる蠶蛹は初めは健全なるにもせよ後には蛆を寄生するの徴候を呈す

(二)繭の光澤にては蛆の寄生するや否やは鑑別すること能はず

(三)春蠶種を製造する蠶室に於て秋蠶を飼育したりとて其蠶種に害あることは敢て實驗せざるなり又春蠶を飼育したる蠶室に於て秋蠶を飼育するも敢て何等の害なきことゝ信ず

●外報

◎歐洲諸國養蠶成蹟

歐洲諸國に於ける本年養蠶成蹟に附き里昂駐在帝國二等領事山田忠澄氏より八月二十七日附を以て外務省へ左の如く報告せられたり

本年歐洲に於ける養蠶の成蹟即ち繭繭收獲の概算を得たれば茲に報告して我當業者の參考に資す

西班牙　在西國ラランス佛蘭西商業會議所の報告に據れは本年同國に於ける繭の收獲概算高は百二十萬基なり之を昨年の同高に比すれは凡そ一割の增進を示せり該概算高百二十萬基の内同國居住佛製絲家買入高は六十七萬六千基、佛製絲家買入輸出高は十七萬六千基、西國製絲家買入高は三十一萬基にして殘餘は漁業釣絲の製造に供したるものとす

本年西國の養蠶に供したる蠶卵高の減したるにも拘らす繭の收獲に增額を告げたるは其飼育蠶卵高の大半は佛國ヴール、オートアルプ及パース、アルプの三縣より輸入の蠶種にして其品質の善良なると養蠶季節中天氣快晴なりしとに因れり

伊太利　伊國農務局へ各地方より達したる報告に據れは本年同國の繭收獲高は凡そ三千八百五十萬基(此價額二千五百萬「リラ」)なり之を昨年の同高四千三百六十五萬三千基に比すれは凡そ一割二分の減額を見るへし

佛蘭西　里昂蠶絲商組合の調査に據れは本年佛國重要の養蠶區五百八十六箇村に於ける繭の收獲高は四百五十萬三千五百七十四基なるを以て之を昨年の同高五百十八萬六千四百四十六基に比すれは凡そ一割三分の減少なりとす

該收獲高を各縣に分別すれは左表の如し

縣名	養蠶村の數	二十七年繭の收穫量	二十八年繭の收穫量
ガール	一五九	一、五二四、八七九	一、三六八、五三六
アルデーシュ	八七	一、一〇二、八三一	一、〇八二、四四〇
ドローム	九二	七二〇、七九六	六〇三、四一五
ヴォークリュズ	六八	八七六、三八四	六九二、九三〇
ブーシュデュ、ローン	三五	二二八、三七九	一四五、五二九
ソール	四六	三四一、八六二	三一一、〇六八

イヒール	七〇	二九二、八二五	二一五、七三七
エロール	二九	九八、四九〇	八三、九一九
計	五八六	五、八一六、四四六	四、五〇三、五七四

西、伊、佛三箇國本年の繭收獲高概算は前文列擧するか如し今更に右三箇國に於ける昨今兩年間の繭收獲高を對照するに左の如し

國名	明治二十七年	明治二十八年
佛蘭西	一〇、五八四、〇〇〇	九、三〇〇、〇〇〇
伊太利	四三、六五三、〇〇〇	三八、五〇〇、〇〇〇
西班牙	一、一〇〇、〇〇〇	一、二〇〇、〇〇〇

（備考）但し佛國の收獲高前後擧げたる所符合せさるは茲には全國の收獲高を掲け前表には唯佛國主要地の收獲のみを載せたれはなり

◎北米合衆國生絲輸入高

八月八日の濠國商業博物館週報に據れは本年六月三十日を以て終りたる一年度間に北米合衆國の諸港に輸入したる生絲は歐洲よりの分七千七百二十八俵此價額六百萬千三百四十弗、日本よりの分二萬五千百二十九俵此價額千三十九萬二百九十二弗、支那よりの分一萬八千四百九十五俵此價額四百七十五萬四千七十八弗に達せり

◎里昂蠶絲商況

佛國里昂に於ける蠶絲商況に關し同地駐在帝國二等領事山田忠澄氏より本年八月二十六日附を以て外務省へ左の如く報告せられたり（本會報第三拾八號參看）

七月中當里昂蠶絲市場は取引緩慢なりしも本月に入り忽ち小幅物製造地サンテチエンヌ及瑞西よりの蠶絲需要當市場に現れ來り爲に少しく商況を浮揚せり即ち本月三日より十日に至る第一週間は少からざる取引あり而して當時需要の首位を占めたるはシリー經生絲、日本經絲絲なりき爾來佛、西、伊諸國撚絲家の需要あり加ふるに當地織屋日々の實用的仕入は第二週間に於て更に市況の振興を促せるものにして最も買者の眷顧を博せしは依然亞細亞產生絲なり此好運に伴ひ絲價一般に昇騰し就中亞細亞生絲相場の如きは進て一層の昂度に達せり此機に際しブルース及シリー產絲も亦許多の顧客を得るに至れり從來日絲、伊絲相共に市價騰貴の時に於てはブルース及シリー絲を以て之を代用すること往々之ありしは豫て聞知する所なるが當時に於けるブルース及シリー絲要需の增進は即ち此理由に誇因するものゝ如し況やシリー新絲の如きは昨年の古絲に比し其品質優等なるに於てをや第三週間即ち當週間は引續き前週來の好況を維持するに止らず稍〻活況を呈するに至りたるは即ち左に擧くる如く當地蠶絲改所登記捆數の莫大なりしを以て測知せらる此活況に乘じ諸國產絲孰も皆多少取引あり就中常に需要の最も多きは極東產絲にして日本及廣東機械絲の如きは市價漸を以て昇騰の向傾あるは我蠶業社會のため寔に賀すべきなり

未來の商況如何は敢て豫言し能はざる所なれども茲に當地蠶絲商況の將來を卜するに織屋は目下冬季用注文品の織製に繁劇なるに際し來春用織布の注文は例年より其期を早め且下已に織屋へ多量の注文達しつゝありと云へば自ら是が織製に多量の原料絲を要するや必然たり然るに目下織屋が貯ふる所の原料及蠶絲のみを以て該注文充足すべきにあらざれば織屋たる者進て原料絲の買入を爲さゝるを得ず左れば蠶絲將來の成行は大に望あるものゝ如く信ぜらる

當地蠶絲改所に於ける本月十五日より二十一日に至る一週間の登記絲量は十一萬七百四十基此捆數

千六百七十九の内亞細亞靈絲の分を抄記するに左の如し

品名		日本	支那	廣東
經絲		四〇	一四	二七
緯絲		四八	五八	四七
生絲		一五〇	三七六	二五三

本月二十一日當地靈絲共同倉庫に於ける亞細亞靈絲在荷の内譯は左の如し

		日本	支那	廣東
		七七一	六六八	八八一

現時の靈絲相場を摘記すれば左の如し

生絲

佛セウエンヌ	極上	五〇—五一	
同	一等	四七—四八	
同	二等	四五半—四六	
シリー	一等	四二—四二半	
同	二等	四〇	
伊太利	一等	五〇	
同	二等	四六—四七	
日本機械絲	一等	四五	
同	二等	四二半—四三	
同	三等	四〇—四〇半	
廣東同	一等	三四半—三五	

廣東機械絲	二等	三二半—三三	
同同	三等	三一半—三二	

緯絲

廣東機械絲	一等	四二—四三	
同同	二等	三八	
支那	一等	三九—四〇	
日本機械絲	一等	四九—五〇	
同同	二等	四七—四八	
伊太利	一等	五一	
同	二等	四七—四八	
佛蘭四	一等	四八—四九	
同	二等	四七	

經絲

廣東機械絲	一等	三九	
同同	二等	三六半—三七	
支那	一等	四一—四二	
同	二等	三八—四〇	
日本機械絲	一等	五一—五二	
同同	二等	四八	

シリー	二等	四八—四九	
伊太利	一等	五六	
同	二等	五一	
佛蘭四	極上	五六	
同	一等	五三—五四	
同	二等	四九—五一	

◎米國向本邦製輕量羽二重の需要　米國向本邦製輕量羽二重の需要に關し桑港駐在帝國二等領事神屋三郎氏より九月十日附を以て外務省へ左の如く報告せられたり

本邦製輕量羽二重の注文多き原因並に同品需要の狀況等に關し當地重立ちたる當業者の意見を聞くに左の如し

輕量羽二重の注文多き原因　（第一）絹類の需要は他品の如く一定不動なる能はず流行の變遷に伴ひ時々消長するものにして近來輕量品注文の增進も亦現今流行の然らしむる所なり（第二）日本製輕量羽二重は美麗なる割合に其價格甚だ廉にして一碼三十仙乃至五十仙位なれば貧富の別なく一般人民の容易に需要し得べきこと是なり此點に於ては歐米諸國の製品は勿論支那製羽二重も到底競爭する能はざるなり

輕量羽二重の使用法　輕量羽二重の用途は一にして足らずと雖も主として椅衾及婦人衣袖の裝飾等に使用せらる

織地輕軟に關する苦情の有無　織地の輕浮は當今流行の主點にして需要者の意輕浮を求むるに在りて耐久の如何は之を念慮に挿まざるを以て耐久の度に關しては聊か苦情あるを聞かず但し從來の軟輕性を失はず價格に異動なくして却て更に耐久の質を添加するときは愈々益々好評を博すべきは更に疑ひを容れざる所なり

絹業者に對する注意　日本製羽二重は前述の如く至極好評を博するも日本絹業者に對する苦情は頗る多きが如し「ホワイト、ハウス」は太平洋沿岸に於ける最大の呉服商店にして手廣く世界の織物を取扱ひ當港同業者中最も經驗を有するものなるが日本本絹業者の取引上依頼し得べからざることと實に左の如く說話せり

第一　絹物は時の流行に投ぜざるべからざるものなれば製造者に於て迅速注文に應ずるの覺悟なかるべからず然るに從來絹業者は常に注文を充すに遲滯し指定の日限を誤らざる者殆ど稀なる程にて注文品は往々流行の時機に後れて到達し爲に注文者は頗る迷惑を蒙ることあり故に現に日本品の廉價にして且つ嗜好に適するを知りながら急速を要する流行品に至りては注文の期日を誤られんことを恐れ已むことを得ず佛國其他の絹業者に注文を送ること屢次あり

第二　日本絹業者の弊は獨り注文期日を誤るのみならず見本通の物品を送り來ること甚だ稀なり偶々之あるも多くは品不揃にして同一標のものを得る頗る難し云々

●雜報

◎農商務省第十四回報告　農商務省第十四回報告明治二十七年度中に於て同省の施設に係る省務中蠶絲に關する事項を抄錄すれば左の如し

蠶絲業組合　は前年度に繼續し各府縣に於て適宜之が取締を施行せしが斯業の發達進歩に連れ其取締を益嚴ならしめ組合の基礎を鞏固たらしむるの必要を生ぜり是を以て奈良外十二縣より新に取締規則の發布認可又は從來施行せるものゝ更正追加等を稟請せり依て本省は地方業務の進否如何を酌量し不都合なきものに限り之を認可せり其細別は左の如し

奈良縣　蠶絲業取締規則發布の上申
滋賀縣　同上改正の再上申
岐阜縣　同上稟申
島根縣　同上上申
山口縣　蠶絲業組合取締規則發布の稟議
佐賀縣　蠶絲業組合規則改正の稟議
熊本縣　蠶絲業取締規則改正の伺
宮崎縣　同上追加の上申
鹿兒島縣　同上更正の上申
神奈川縣　蠶絲業規則更正の伺
兵庫縣　蠶絲業組合規則追加更正の上申
千葉縣　蠶絲業取締規則制定の伺
岐阜縣　同上改正の上申
島根縣　同上更正の伺

蠶種取締　府縣は蠶絲業組合を設置せしめて業務の改良發達を圖るに急なりと雖も蠶種の粗製濫造は蠶業の發達に伴て近來益甚しきを致せるの狀況あるに據り新潟外四縣より之が製造取締の必要を認め該品を檢査して改良の趣旨を貫徹せしむるの精神に基き地方民度の如何を顧り之が檢査規則

の制定發布又は從來施行せしものゝ更正を具申せり依て本省は地方蠶業發達の程度と實施の難易とを酌量して之を認可し其檢査方法の如きは務めて均一ならんことを期せり其細別は左の如し

新潟縣　蠶種取締規則制定の答申　　富山縣　同上發布の答申
栃木縣　同上改正上申　　福井縣　同上
山梨縣　同上

蠶種檢査　本年度に於ける各府縣原種用蠶種檢査の成蹟は東京、群馬、栃木、山梨、長野、石川、鳥取、島根、福岡、鹿兒島の一府九縣より報告なきを以て全國檢査成蹟を知る能はざるも報告を領せし府縣に於て施行したる所の成蹟は左の如し

檢査所數　百四十三ヶ所
檢査員數　二百九十二人
受檢人員　一萬六千五百十四人
受檢普通製蠶種枚數　十七萬〇七百枚
內　廢棄枚數　二萬五千〇二十五枚
受檢巡製蠶種枚數　十四萬八千八百二十三枚
內　檢査證印を與へたる枚數　十萬七千八百九十九枚
廢棄枚數　四萬九百二十四枚
檢査證印を與へたる枚數　十四萬五千五百七十五枚

以上は原種用蠶種檢査に係る規則に依り檢査したる成蹟にして其廢棄の歩合は普通製は一割四歩六厘にして框製は二割七歩五厘とす普通製種の漸く其數を減し框製種の比年其數を增すは蠶業進歩の一斑を示すに足る是れ主として蠶種檢査を嚴密に施行せるに起因するものならん

蠶業傳習所及蠶絲業巡廻教師　本邦殖産興業を圖るの目的を以て府縣は府縣稅又は地方稅を以て農事に係る諸業を幇助し傳習所、講習所或は巡廻教師を設置し或は之か費用を補給し着々改良進歩を料ると雖も是等の諸設置は未た一定の規律の下に取締の規定あらさるを以て二十七年省令第八號及訓令第十二號を發布し之か監督を施行せり此規定に由り府縣は傳習所、講習所等に對する之か設立若くは補助に係る認可を稟請せり依て其認可を與へたるものは三縣にして既設のものに就き屆出をなしたるもの四縣とす其細別は左の如し

愛媛縣、鄙本縣　養蠶傳習所屆出　香川縣、茨城縣　蠶業巡廻教師屆出
鹿島縣、島根縣、奈良縣　同　認可　茨城縣　製絲巡廻教師屆出

蠶事試驗　は昨年と同しく學術と經濟の點より之を施行し以て蠶業改良の資とす其項目左の如し

貯桑試驗
桑野桑比較試驗
蠶兒飼育上善惡桑葉試驗
蠶種浸水試驗
蠶種害蟲試驗第三
公附蠶種試驗
持立早晩試驗
蠶飼育試驗
同功繭試驗
蠶ノ種類試驗
繭質改良試驗
殺蛹及貯繭試驗第二
殺蛹早晩得失試驗
殺蛹温度高低試驗
乾燥温度高低試驗
製絲用水質試驗第四

其一　其二　其三

以上試驗の成蹟は載せて蠶事報告第十一號にあるを以て茲に之を略す該報告書は例年の如く之を各府縣郡役所及地方當業者に配付せり

十七年東京市內山下町に於て蠶業試驗に着手せし以來二十六年に至る十年間の成蹟は每年之を印刷して地方廳及地方當業者に配付せしと雖も數年繼續の試驗の如きは多少年々成蹟に徑庭の差あるを以て此十年間の成蹟を總括編纂し之を十年報と名け印刷頒布せり

蠶業傳習　は前年の如く地方蠶業傳習所教師若くは巡廻教師を養成するの目的を以て各府縣より生徒六十四名を入場せしめ二月一日より學科を授け養蠶實習の前後に於て蠶業上必要の學理を教授し七月三十日を以て規定の傳習を結了す同月三十一日修業證書を授與せる人員は五十八名にして此他六

名は病氣又は事故を以て中途退場せり

其他講義の傍聽を乞ふもの亦多きを以て前年の例により十五名を限り傍聽生として之が入場を許し

蠶業に係る學理を修得するの便益を得せしめたり

蠶種配布　は前年來試驗の爲め製造せし蠶種の殘餘を地方篤志者に配與したるに請求者は年一年に多きを加へ本年は實に二千〇二十三人に達し其枚數一萬有餘の多きに至れりしかれども試製蠶種は數に限りありて各自の意を滿たすに足らざるを以て各府縣請求者の多寡に從ひ適宜分配せり其配付枚數は九百四十六枚にして內各府縣篤志者へ配布は八百枚、傳習生及手傳へ配布は百四十六枚なり

◎富山縣の稚蠶飼育　富山縣に於ては養蠶改良奬勵のため地方稅より一箇所に三十圓以上五十圓以內の補助を與へ各郡に一箇所づゝの稚蠶飼育場を設置し其最寄當業者の依托に應じ稚蠶を飼育し二眠起後各〻其依托者に分配飼育せしめしに孰も其成蹟良好にして其收繭從來依托者自ら飼育したるものに比すれば蟻量四匁即ち普通蠶種一枚に附き平均四貫目の增穫なりしを以て當業者は稚蠶飼育分業の必要を感ぜりと

◎兵庫縣下蠶絲等產額　兵庫縣下に於ける昨二十七年生絲、屑絲、眞綿、蠶卵紙等の產額は左の如し

種別	一國別	摂津	播磨	但馬	丹波	淡路	計	前年比較增減
機械生絲	貫	一二	二、一八〇	七、六九九	六、三一九	一一五	一六、三三五	三、四九九 增
其他生絲	貫	六八	一、〇八六	一、三一七	一、三三三	四二	一三、八四六	減
屑糸絲	貫	一一	二六一	一、八六〇	一、〇四〇	二	三、一七四	二、六四〇 減

玉絲	七	二二八	一、八一二	七七八	五	二八三〇	減	五八九
屑絲及屑物	一七	一、〇一〇	三、五一五	一、五七六	九	六、一二七	增	九七九
眞綿	四	一九	一、一一五	三〇二	—	一、四四〇	減	九三
合計	一一九	四、七八四	二七、三一八	一一、三四八	一七三	四三、七四二	增	一、二一六
蠶卵紙	五枚	四、六八〇	五六、六〇三	三、二四三 枚	三五 枚	六四、五六六 枚	增	四〇、九〇八 枚

（備考）本表に係る製絲所は製造所播磨十一、但馬五十、丹波三十三、淡路一、計九十五箇所、自宅は攝津三百五十三、播磨七百八、但馬八千十、丹波千七百七、淡路百六、計一萬八百八十四戶、合計一萬九百七十九箇所、蠶卵紙製造戶數は攝津一、播磨百四十九、但馬百二十七、丹波七十二、淡路四、計三百五十三戶なり

◎熊本縣春蠶收穫高及桑畑段別　熊本縣に於ける本年春蠶の發生は例年に比し凡そ二三日若くは五六日も遲れ且つ當初は氣候不順のため概して不齊勝なりしが二三眠の期より順候に復し爾後氣候適順殊に降雨稀にして頗る良好なりしを以て前年に比し二千百三十四石を增加せり其細別は飼養戶數一萬四千八十九戶、繭七千三百十七石、玉繭八百十三石、出殼繭二百三十七石、屑繭四百六十八石計八千八百三十五石、桑畑段別千二百五十一町八段、見積段別百七十五町一段にして前年に比すれば二百七十六町八段を增加せり然れども本年の旱害は非常に桑樹の發育を妨げ其收葉一割乃至二割餘を減少せり左に明治十三年より二十七年に至る同縣繭、生絲の產額及桑園段別累年統計を揭ぐ以て同縣の蠶業が如何に進步しつゝあるかを推するに足らむ但し計數は春夏秋蠶を通算したるものなり

年	繭石	生絲貫	桑園段	年	繭石	生絲貫	桑園段
明治十三年	六七八	三三七	一一二一	明治十四年	六七一	三五四	二一三一

十五年	六六五	三一一	一二八二	廿二年	二、六六六一	一、七七八	四九九、九
十六年	一、二四五	八一七	一二二〇	廿三年	三、七六〇	二、六四一	五八〇、六
十七年	一、九九七	八四八	二三九三	廿四年	四三三四	二、五二八	七四八、七
十八年	二〇〇一	八八四	二二一八	廿五年	六、一〇三	四、七四五	八一一、四
十九年	一、八七五	九七九	二二六三	廿六年	七、二六八	五、二五五	九七一、九
二十年	二、七六七	一、二六六	二五四八	廿七年	八、〇八六	五、七七〇	一一八一、九
廿一年	二、五八一	一、四二五	二五四、八				

◎南清の養蠶製絲　所謂廣東生絲なる名を有して歐米の市場に上るものを南清の製絲となす今此に廣東に派遣されし瑞西政府の視察員が復命したる報告書に就き其概略を摘譯し以て一般を詳かにせん、南清地方に行はるゝ蠶兒飼育法は百年以前と毫も異なる所なく簡略極まる方法に據れり蠶卵青みを催して蠶兒卵巣を出でんとするや桑葉を一面に打ち覆はしむるが故、蠶兒は生るゝと共に食を得るとなり斯くして後ち竹にて造りし格架の上へ移し掃除の時の外は之を動かさず初めは細かに切りたる桑葉を一日二三度位給與し蠶兒の發育するに隨ひ切りを荒くす發生後八日許にして初眠に入り又八日許にして二眠に就き愈ゝ四眠起に至れば六日許にして生育を止め上簇するに至る上簇の際は矢張り竹籠へ孔の多き布類の幾片を取り散らし結繭に便利を與ふると共に玉繭を造る妨碍を爲す、飼育の手續は凡そ此の如きものなり扨て又生絲の產額を調査せんか一歲凡そ四萬五千担より五萬五千担にて先づ六百六十萬ポンドと見て大差なかるべきか收獲期に據りて之を區別すれば四月末の收獲にて四五千担、五月の終りに一萬より一萬二千担、第三期なる六月末には六七千担、第四期なる七月末には同じく六七千担、第五期なる八月末には一萬二千担より一萬五千担、第六期なる九月末には五六千担、第七期なる十月末には二三千担なりとす故に南清地方にては春尙は淺き時より秋已に深き頃迄養蠶を爲し得る筈なりとす而して此等の生絲の消費先きを調査するに其三分の二に恰當する三萬担は內地の製絲原料に需められ衣服地を初じめ修飾用乃至繡箔類に仕上ぐるなり殘餘の二萬担は海外へ輸出され歐洲に向け一萬四千担亞米利加へ三千担、印度へ三千担と云ふ割合なるが勿論這は年度の需要如何に因り右の數に多少の相違あるは免れざる所なり斯くて又た生絲として現はるゝは純白其多分を占め黃色僅かに一二分なるが製造さるゝ方法に據りて區別するときは七里絲及び器械絲の外二種類あり七里絲を製造する職工は元より熟練なりと雖ども要するに目分量を以てする仕事なれば第一に煮沸する釜の沸加減さへ知れ難く一定の溫度を有せしむるとなどは到底得らるべき譯ならざるが故何を以てかデニールの一定光澤彈力の完全なるを望むを得ん且つ夫れ同じ繭の數量を以てしても器械に掛けて十を得るものを手挽に掛くれば十より八位を得るのみなれば一は需要する方面より他も亦器械絲の優れるを認識し七里絲以下は漸次自滅を取るべきは疑に掛けて見るが如し顧みれば歐洲風の器械が廣東に創設されて模範を示したるは千八百七十年にして今日は已に八十軒の製絲所あり大なるは八百釜を一屋の下に集むるものさへあり其製造さるゝ生絲は$\frac{1}{9}$のデニール$\frac{1}{18}$のデニールを普通とするが其數量多からざるを以て尙ほ消費地方を雄飛し難しと雖ども品質は隨分優好にして所謂一等絲なる生絲と比儔するも決して後れを取らざる眞品なり概するに南清地方は之を北清に比較すれば氣候の溫暖にして養蠶飼育に適したるが如き若しくは商業に掛けて拔目なきが如き種々の特點あるが故、愈ゝ器械を以て製絲をなし其名聲を發揚すると共に利益を操ること多く躍て養蠶業大に開發せば一層屈指の生絲供給地

方として顯れんと一點の疑惑を挿むべからず云々と

◎新潟縣下の蠶絲業　近年同縣下養蠶の業漸く開け其產額殆ど米穀に次くの副產物となりしが惜ひかな品質組惡なるため第四回內國勸業博覽會に於て賞を受けしもの僅に一點に過ぎずされば比例上全國最劣等の位置にあり斯業の爲め實に遺憾と爲す今や恰も好し大日本蠶絲會品評會の開催あり斯業者は此機を幸ひに進んで多く出品し以て名譽の恢復を謀るべしと其向の人は語れり（十月二十日東北日報）

◎山梨縣の蠶絲業　余は蠶絲業視察の目的を以て九月下旬東京を發足し八王子を經て山梨縣に入り郡內地方を歷游して甲府に到着せしは十月上旬なりき時恰も大日本農會山梨支會第一回物產共進會を縣會議事堂內に開設せられ一堂の裡に蠶種繭生絲織物を始めとし峽中八珍果の大半を熟覽するの便を得たるは余の至幸にして其益亦尠きにあらざるなり同會は十月十日を以て其褒賞授與式を擧行し田沼山梨縣知事、渡部農務局農事課長、池田大日本農會幹事長代理の臨席あり當時同會審査長八田達也氏の朗讀せられたる審査報告書は正確にして周到能く山梨縣殖產業の狀態を知悉するに足るを以て特に繭生絲蠶種の分を拔錄して貴誌に寄す（栃木縣會員峽中鬻客毛利正雄）

繭　繭は品位概して善良なり就中光澤の美麗なる從來多く見ざる所なり蓋し斯る良結果を收めたるは本年飼蠶の當時氣候適順なりしもの與つて力多かるべしと雖も殺蛹及貯藏其宜きを得たるに非れは寧んぞ能く此くの如くなるを得んや夫れ本年大暑の前後にありては陰雨日を重ね徵害を蒙りしもの鮮からざりしにも拘はらず其光澤一見收繭の當時と異らざりしは畢竟吾人が常に憂慮せる殺蛹貯藏の方法漸く改良の効果を奏したるにあらずして何んぞ聞く第四回勸業博覽會出品中殺蛹の時期と方法と適切なりしもの獨り本縣南都留郡相川某の出品のみなりしと然るに本會出品の繭は二十七年の產出にして本會出品の繭は二十八年の產なり此間相距る期年のみ而かも彼此如斯差を生ず進歩の速度豈驚かざるを得んや加之ならず纖維の適否額節及切斷の歩合等最も嚴正なる例則によりて審査せしに否點を附したるもの僅かに十數點に過ぎず就中纖維の點に於ては細大宜きに適ひ一の否點を附したるものなし繭の種類は小石丸又昔等多數を占む是れ亦種類改良の緊要なるを知得せし結果なりと信ず

生絲　生絲は本縣の重要物產にして開港以前已に內國用絹布の原料として多額の製產あり外國貿易の開くるや率先して之れが輸出を圖り爾來年一年に其數を增加し一年一萬梱の輸出を爲し得べき氣運に向ひ本邦二三の蠶絲國たる名に背かずといへども顧みて既往の聲價を察すれば往々粗製濫造の評を免れず其價格は某縣生繰絲の殿後に落ち甚だしきに至りては偶ゝ優品あるも之れに他府縣の商標を附し却つて他府縣產出の粗惡品は本縣產と僞稱して輸出せらるゝに至り聲價地に落ち衰頹其極に達せり是に於て乎當業者銳意挽回の策を講じ近年大いに改良の實蹟を顯はし其聲價骨つて本縣に超越せし某縣を凌ぐに至りしは眞に縣下のため慶賀すべきの至りならずや本會出陳の生絲は纖維色澤間然すべき點なしと雖も綾振及束絲方に至ては猶大に改良を要する點なきにあらず此二點に就ては第四回博覽會に於ても多少非難を免れざりしと聞く其他繭の煮湯其度に達せざるがためか將た繭の良否撰別に勉めざるに據るか質額を顯はせしもの往々あり是れ又研究改良せざるべからざる要件なりと思考す

蠶種　蠶種製造業は近年長足の進歩を呈し毎年製造額を增し販路亦從つて擴張し今や全國到る所其需用者を有せざるなきに至れり本會出品中審査のもの少からずといへども製造方の一定せざると中書即種類名稱等の記入方區々に渉りて一ならざるは亦一の欠點なり此は外見の美醜に過ぎざれども商品として其眸を失する憾みなしとせず種類は小石丸又昔等に良種多く種類一定上甚だ喜ぶべしといへども偶〻一種粗惡の種類あり速かに絶滅せんことを期せざるべからず玆に驚くべきは出品中病毒百分の二十乃至十八の多きものを發見せり蠶種檢査勵行の今日に於て斯かる病毒を見るは實に怪訝に堪へざる事實と云ふべし出品者の猛省あらんことを望む(以上)

因みに云ふ山梨縣下に於て蠶種掃立枚數の多きは都留郡にして最も進歩せるは東山梨、東八代の兩郡なり又蠶種檢査は明治二十六年の創設に係り甲府を中心として日下部、韮崎、石和、谷村、鰍ヶ澤、猿橋、上ノ原の七箇所に檢査所を設け八田達也氏其局に在りて三十名餘の檢査員を指揮督勵して事に當らるが故庶務の整備檢査の進捗檢査員の幾力檢査と當業者との圓滿等更に間然する所あるを見ず檢査の効果是に於てか全しと云ふを得べし

◎西ヶ原蠶業傳習生募集　西ヶ原農務局蠶業試驗場にては明年二月一日より向ふ六箇月間蠶業傳習を行はるゝに付各府縣にては來る十一月十五日までに左記傳習生募集手續に據り養蠶實業問題に應答せしめ其優等者を撰出して傳習を受けしむることゝなれり右傳習生募集手續は左の如しと云ふ

一　傳習生は養蠶實業問題に應答し左の資格を有する者に限る

一　年齡二十五年以上の者

一　三ヶ年以上養蠶業に從事せし者

一　學力尋常中學校生徒相當の者

一　品行方正にして養蠶傳習所教師又は養蠶巡廻教師に適當すべき見込ある者

一　顯微鏡は成るべく提携すべき事

一　蠶脉解剖器は必ず提携すべき事

一　旅費食費其他一切自辨たるべき事

一　二月一日以後到着せし者は傳習生たることを得ず

◎農科大學の養蠶學科　帝國大學に於ては今般農科大學學科課程及乙科規則中改正を加へられしが其課程に據れば養蠶論は農學科に於ては第二年第一、二期とも毎週二時、農藝化學科に於ても上に同じく、農學科乙科に於ては第二年第二期に毎週三時なりと

◎札幌蠶業傳習所卒業者　北海道廳直轄札幌蠶業傳習所は明治二十二年の設立に係り本道内に居住する農家の子弟に向ひて蠶業上簡易なる學理と實業とを教授する所にして卒業期を前期、後期の二に分ち毎期一箇年と定め前期は專ら實業を練習せしめ後期は實業と學理とを教授し二期の科程を履修せし者を全科卒業者と爲し證書を授與し來りしが本年は全科卒業者十一名を出したるを以て九月十四日卒業證書授與式を擧行せられたりと云ふ

◎土佐中央蠶業會　同會は豫定の如く十月六日高知市帶屋町勸業場に於て開かる來會者は一市七郡の實業熱心家にして其問題は、第一　蠶絲業集談、輓近本業の進發せしは他業に比し著し故に改

良せしもの及弊害顯出したるもの或は本業發達の爲他業に影響を及ぼしたる利害等を陳し以て將來誘導及矯正するの方法を述ふべし、第二　製絲改良の事、縣下養蠶の業は年を追て益〻流行し次いに擴張せんとするの狀態なるも製絲の業に至つては製造販賣共に孤立區々の習慣を脫せざれば需用を內國用に取らざるを得ず故に價格は極めて劣等に位すれば當業者の利益多からず今にして後進の方針を定めざれば一朝絲價の暴落等に際すれば獨り生絲のみに止まらず養蠶は素より桑園迄も影響を及ぼし或は蠶絲業は一切の退歩を來すの不幸なしとせず故に其改良進歩の方法は如何と云ふにあり、第三　蠶絲業組合設置の事、明治十九年本縣甲第六號を以て蠶絲組合準則を布達せられしより高岡土佐香美の三郡は直に準則に基き組合を組織し取締所を設けたるも當時縣下該業は極めて幼稚にして產額の如きも目今に比すれば凡そ五分の一に過ぎざれば組合の効一として見るべきものなく終に二十二年に於て其筋の認可を得て取締所の運動を中止せしより從て組合の運動も自然消滅の實況となれり今や縣下該業は前日の比にあらざるは喋辯を要せず如斯發達增進せし場合にして協力同心なきは其機軸なきに由るにあらざりしや果して組合を可とすれば其組織の方法は如何と云ふにあり、附たり組合に於て實行すべき事項は(一)蠶繭の種類減少せしむると(二)生絲檢査法を設くると(三)秋蠶種無毒健全のものを飼育せしめん爲長野縣下本場に委員を出張せしめ取調をなすと(四)夏蠶種の檢査をなすと(五)生絲共同揚返場を各所に設置せしむると(六)生絲共同販賣を企圖せしむると(七)揚枠の寸方を一定せしむると(八)蛆害を豫防せしむると

當日午前九時四十分開議西內義顯氏會長席に着き問題に就て各自の意見を陳べしむ第一問は各員より種々の意見出でしも左したる名說もなかりし第二問は後回しとなして第三問を諮せしが本案には一人の異議者なく滿場一致を以て之を可決し尙ほ蠶絲業取締規則の發布を知事に建議することをも決議し一市七郡より左の委員を選擧し組合創立及建議の事を委托することゝなせり高知市竹內元衞、田所正澄、安藝郡西澤岩吉、宮田良太郎、香美郡安岡又彥、中島文明、長岡郡池本泉、小笠原自治夫、土佐郡乃萬澤禮五郎、片山要三郎、吾川郡平田原吉、岡崎伊太郎、高岡郡中平秀則、今村熊衞、幡多郡小野正道、宮崎嘉武、夫より第二問題に移り西內義顯氏より蠶絲を改良して其價位を高めんと欲せば是非共一種類の絲を機械にて製し一商標を以て之を販賣せざるべからず而も一個人にて之を爲さんこと到底望むべからざるを以て實業家申合せの上資本を募り尙ほ縣稅の保護を得て一大製絲會社を起し縣下の絲を一手に製し一手に販賣することゝ爲さば大に改良の効を見るを得んとの說出で多數の贊成者ありしも西澤岩吉氏は之に反對し元來製絲業は商業的事業にして繭の買入絲の販賣等敏なる働を要し農家の事業としては甚だ困難なり且つ近來老練家の說を聞くも製絲業は非常に危險なるものなれば一大有力の資本家之を營業するか否らざれば親族若くは多數親友の間等に成り立ちたる會社にあらずんば堪ゆる能はずと云へり縣下に一大製絲會社を起すことは理論上甚だ宜しき樣なれども實際果して能く其企望の如く行はるゝや否覺束なし又た現時の狀態を考るに製絲業は日に進歩して現に蒸氣機械に依て製絲を爲しつゝあるものもあり又た今其計畫中のものもあり是等を合算する時は來年度には機械製絲所九ヶ所の多に至るべし故に縣下今日の繭の產額より對照すれば最早や大製絲會社設立の餘地なかるべし縣稅の補助に至ては甚だ六ヶ敷かるべし何となれば縣下の製絲にして機械製絲の誘導を要すれば或

は補助を望むべきも已に述るが如く來年度には機械製絲の業東西に起りて成蔵の不足を恐るゝ程の現況なれば今更之を誘導するの必要なきを以て隨て縣稅の保助を要せざるべし云々氏の此說に對しては反駁者多く中には結息なりと罵る人もありしが縣會議員の肩書ある氏の縣稅保護拒絕論は大に空望家の腔腹を打擊せしが如く製絲會社設立の提議は遂に立ち消となり他の意見も出でざりしを以て製絲改良の事は別に實行的決議を爲すに至らずして止み夫より佐川の前田氏鶯種檢査所の佐藤氏、岡本氏の蠶絲業に關する談話及澤本眞臣氏の日清貿易談等あり散會したるは午後四時四十五分なりしと

◎九州三業大會趣意書　十月十一日より大分町縣會議事堂に於て開きたる九州三業大會の趣意書は左の如しと云ふ

我邦人は連戰克捷の結果として益〻實業の改善發達を企圖せざるべからざるは業に已に輿論の歸着する處にして敢て一日も之を忽にすべからざるなり況や臺灣鎭定の後にありては我九州農工商諸般の書策決して戰捷以前の比にあらざるに於ておや是時に當てや海に陸に機に應じ變に處し利抗の存する處銳意熱心以て之が先鞭者たるを期せざるべからず是れ獨り九州の以て富を致す爲のみならず國勢を增進し國力を培養する一に其素なからざるを得ざればなり此の素を講じ施て勢力の增進培養に及すは余輩實業家一致團結の力に依らざれば敢て其目的を達する能はざるや明なり是故に本年四月第二回全國實業聯合大會を京都市に開き全國を數區に區畫し帝國議會に先ちて各區の大會を招集し各自其決議を聯合大會に提出し全國輿論を一定し或は政府に請願し或は議會に建議し以て之が實行を促し國勢を增進し國力を培養せんことを是れ期したりき、然るに本年二月佐賀縣に於て開會せし九州農會幷に福岡縣に於ける九州茶業會は次會を大分縣に開くの約なるも其會期は明年二月の交なるを以て帝國議會の開會に後れ緊急の議決も明年の會期を俟つて建議せざるを得ざるの不幸あるを以て玆に農茶兩大會の會期を變更し更に佐賀縣に交渉して本年同縣に於て開設すべき蠶絲業大會を大分縣に遷し農蠶茶三業九州大會の名稱を以て來る十月十日より左記の日割（日割は略す）を以て當縣會議事堂に該大會を開設することゝせり、本會には前田正名君來臨せられ尙主務省に向て專務師の派遣を請求し九州各縣の學士老農等各業に精通せる諸士を招請せり是れ啻に會合者の便益を得るのみならず前陳の旨趣を貫徹し大に三業改良擴張の道を講せんとす當業者諸士熱心此の盛事を贊同せられ地方の有志を誘導し參會あらんことを切望の至りに堪へず

明治廿八年九月　　大分縣大分町大分縣農會事務所內　　九州農蠶茶三業大會事務所

◎九州三大會の概況　十月十二日大分町縣會議事堂に於て九州蠶絲業聯合會及日本蠶絲會九州部會を開きしに來り會する者非常の多數なりし午前十時開會小野惟一郎氏會長席に着き開會の趣旨を述べ且つ協議案を說明し異議なく悉く原案に可決し前田正名氏を日本蠶絲會九州部會長に推薦し夫より前田氏登壇圖解にて一場の談話をなす其要左の如し

九州は何事も率先事に當るの勇あるも其利は之を他に讓れるの實あるは茶業の歷史に徵し明かなりとす蠶絲業の如きも亦他に率先團體を設けしは九州なり切に望む茶の如く利を他に讓るの轍を蹈まざらんことを、九州の例に倣ひ蠶絲業の團體は既に關西關東に成り終に昨年十二月全國蠶絲業會を開きしにあらずや此團體成りてこそ九州の目的をも達すべく明治相當の國家をも形作るべし日本の蠶

絲業は其目的を達することは前途尙遠し桑を賣り繭を鬻くは如何に之を濫賣するも一國の强富には其影響を及ぼさず然と雖ども生絲は之を粗製濫賣せば其痛痒直に四千餘萬の頭上に及ぶべし故に葉固なる團体を組織し機關整備するに非んば縱令良好なる生絲を製出するあるも其價は之を外商に左右せらるべし一昨日の新聞紙を閲するに生絲百斤一千七十弗直取の高きを喜ぶものあるべきも之れ決して喜ぶ能はざるなり之を金貨に換算せば僅かに七百弗に過ぎざるのみ生絲を外國に輸出するは未だ日本の目的を達せるものと云ふべからず之を軍事に譬ふれば團体の設けなく區々の生絲を輸出するは尙訓練なき烏合の夫卒を敵地に出すに異ならず利を制せんとせば堅固なる團体の下に在て生絲を進化し織物となし隊伍整々輸出するの一あるのみ是れ尙訓練せる士卒の陣頭に立つが如し勝算歷々火を睹るよりも明かなり日本の生絲を織物とし之を輸出せば百斤に付其概價額金三千五百弗諸君は之を記憶せよ世界無比の手工に長せる邦人にして今や百斤に對し二千數百弗の工錢を外人に支拂ひつゝあるを又記憶せよ日本は貨物を輸出する少なく我同胞の姉妹を輸出し醜業を爲さしむるの忍ぶ能はざるとあるを聯辱是より大なるはなかるべし今や邦人六ヶ敷とか出來能はざるとかの語を發すべき時にあらざるなり諸君は不幸にして三十日許病に罹りたるものと假定せよ若干の幾價を要すべきは論を待たず此金員を病に費さず實業振興の料に供し又遊説の資に換用せられんとを望む如此せば世を益し己れを利する蓋し鮮少ならざるべし切に望む蹄村の上は正名の精神存する所之を各戸に説示せられんことを

右終て日本茶業會九州部協議會に移る（中略）次に前田氏再び圖解にて説く所あり茶業は先進地方たる山城國及三重縣今や靜岡縣に壓倒され却て後進者たる靜岡地方より教師を聘雇するに至れりとす蠶絲業亦此の如き兆を呈せり圖らざりき長野、群馬、福島の諸縣よりも廣島、島根の各縣に優品の生絲產出せる傾きあるを第四回內國勸業博覽會の出品之を證する所なりとて猶鬼事に從はざるべからざるを痛説せられ大に注意を促し次に中央生絲貿易株式會社設立の必要を説き其趣意書を石田伯介氏に代讀せしめ禁利事業は正名自ら之を爲すを欲せず是れ當業者其局に當るべきを要するなりと懇論せらる（中略）閉會後農商務技手本多岩次郎氏の蠶絲業に關する談話あり終て各自退散せしは午後四時過なりき」

翌十三日午前開會各業調査委員より提出せし協議案を審議せしに悉く委員決議案に確定し午前十一時二十五分閉會式を行ふ會員傍聽者無慮五百餘名大分縣總代辛島彈平氏閉會の式辭を朗讀し其他諸氏の祝詞演説後前田氏の談話あり次に前田氏の音唱に應じ滿場一齊起立　天皇陛下萬歲　皇后陛下萬歲實業萬歲を三唱し退散せしは十一時四十五分なりき午後農學士本多岩次郎氏其他學士實業家諸氏の談話あり午後四時三十分全く閉場したり即ち九州蠶業大會の決議案及協議案は次の如し（決議案）九州蠶絲業聯合會を廢止し日本蠶絲會九州部を設置す　但規程及申合書編製書は委員に附托す（協議案）（一）第二回全國蠶絲大會の決議を速に實施すべき方針を取るの件（二）右に付九州各縣より第九議會開會の際一縣毎に一名乃至二名の委員を上京せしむるの件（三）明治廿九年に開くべき九州大會會場及時期を定むるの件（四）製絲の直輸出を擴張せしむるの件（五）器械製絲場の增設を企圖するの件（六）中央製絲講習所設置の件（七）米、佛、伊、支那四ヶ國へ蠶絲業視察員を派遣せしむるの件右は一名の異議を唱ふる者なく咄嗟の間に議事進行し會頭は直ちに決議と認定する旨を告げたり其他原案に追加として神戸に生絲取引所を設

置するの件は直ちに議決確定せり右農蠶苯の一決議會を終る毎に滿堂の聽衆は拍手して議事の決議を祝するの意を表したりと云ふ

◎日本蠶絲會の運動　日本蠶絲會々長前田正名氏は全國蠶絲業大會の決議に基き政府及議會に對し運動する所あらむとて一府縣より一名の委員を出京せしめ夫ゝ斡旋せしむる手筈なりしも最早議會の開期も目前に迫り居るより議會の開會と共に運動方法等を講ずるため此程各府縣當業者へ夫ゝ左の如く通牒せられたりと

拝啓扨て第二回全國蠶絲業大會の決議に依り第一回及第二回大會決議の件々中政府及議會に對し運び方の儀は一府縣一名の委員を出京せしめ斡旋の勞を執る筈に相成候得ば勿論議會開會の當初より出京相成候樣御取計猶貴下にも可成御操合を以て同時に御出京御盡力の程奚ゝ所祈に候大會の儀も御出京の機會を以て開會相成度候間御了承可被下候殊に左記の件々は豫て御地方選出の代議士へは充分贊成を被得置候樣御取計の程奚ゝ所祈に候仍て此段爲念得貴意候匆々頓首

二十八年十月　日本蠶絲會々長　前田正名

一　蠶種檢査法制定の件
二　蠶絲業組合法制定の件
三　桑樹萎縮病原因及豫防法國費を以て講究の件

◎養蠶製絲に關する新潟縣知事の諭示　十月三日能手田新潟縣知事が同縣下の大地主に對して演說せられたる其大要なりといふを聞くに養蠶はなるべく數種を飼育せずして小石丸、又昔等の二三種を專一とすべきこと、製絲は各郡山間に至るまで廣く坐繰製絲を傳習せしめ以て每戶雪中の常業となさしめ上州碓氷組を以て模範となすべし且つ養蠶製絲の業は農工商の常職ある人ゝは副產業となし大資產家は各身分に應じ養蠶製絲の業を盛大ならしむべし云々

◎蠶種改良方法設定の計畫　滋賀縣の重要物產とも云ふべき蠶種は近年粗惡種を出すものあるを以て此際改良方法を實行せんとて同縣蠶絲業組合頭取布施孫一郎氏は此程來阪田、東淺井兩郡內蠶種製造家の淵叢とも云ふべき土地に於て日々懇談商議しつゝありしに當業者は何れも改良方法制定の一日も速かならんことを希望し夫ゝ團躰を組織して規約等をも定めんとて創立委員等を撰定せし向もあれば遠からず同縣蠶種の面目を一新するならんと云ふ

◎生絲檢査所技師の任命　大日本蠶絲會幹事長農商務技師岡毅氏は十月八日生絲檢査所技師に兼任し高等官五等に敘せられたり

◎大阪府製絲景況　大阪府に於ける製絲の景況に關し同府より農商務省へ報告に曰く本年養蠶の概況は氣候順良なると巡廻教師の懇篤なりしとに依り成績頗る良好なりしことは前回既に報道せし如くなるが製絲の術も年を追ひて熟達し本年の製絲は品質光澤共に前年に比すれは遙に勝れり然るに本年製絲を主とせしものは僅に豐島、能勢、南日根、茨田外二郡役所部內及堺市の各製絲場若くは養蠶傳習所のみにして其他は一般に生繭の儘賣却し漸く座繰器械を以て屑繭又は玉繭を自家用料に製するに過きざりし是れ繭價の昂騰せしに由ると云ふ

◎横濱メール週報摘譯　支那生絲の輸出は昨二十七年中七百三十二萬六千九百七十斤に達し

此内上海蒸汽製絲會社の製造に係るもの四十三萬四千四百斤ありて二十六年に比すれば全輸出額五十二萬千八百斤の增加なり

今上海製絲會社製品を除きたる六百八十九萬二千五百七十斤の價額は二千二百九十七萬二千八百九十四兩にして百斤に付三百三十三兩餘なり又在上海英國總領事ヲヤミーソン氏の談話に曰く上海蒸汽製絲會社に於ては内地より繭を買入れ上海に持來り外人管督の下に繰製し尤も良品を產す此會社に於て製造したる生絲は内地人が製造したる生絲に比較して二割五分乃至五割の高價を占む目下上海には九箇の製絲會社ありて尙新營中のもの二箇所あり其釜數三千五百個にして二十八九年には產額五十五萬斤に上るべしとの豫想なりと將來の勁敵は伊にあらず佛にあらず支那の内地に歐洲人の入り込みて改良を加ふるにあらん

◎霜和雪季節　霜雪の農事其他に關係あるは世人の知悉する所なり殊に秋季の初霜春季の晚霜の如きは其關係の最大なるものとす今や秋季の降霜季節に近接するを以て左に各地霜雪の平均時期と最早時期とを列記して參考に供す（中央氣象臺）

地名	霜 初 平均 月日	霜 初 最早 月日	霜 終 平均 月日	霜 終 最早 月日
那覇	十一、廿二	十一、十	一、一	十二、四
鹿兒島	十一、十八	十、廿二	一、十九	十二、十九
宮崎	十一、廿一	十一、十	十二、三十	十一、廿七
高知	十一、廿二	十一、十四	十二、十二	十一、廿六
德島	十一、廿二	十一、十四	十二、十二	十一、廿六
和歌山	十一、廿九	十一、十三	十二、十八	十一、廿六
大分	十一、十八	十、十七	十二、十	十一、十七
山口	十、廿五	十、八	十二、七	十一、十六
廣島	十一、十五	十、廿六	十二、七	十一、十七
松山	十一、十	十、廿七	十二、十六	十一、廿六
多度津	十二、六	十二、五	十二、十三	十二、十一
岡山	十一、二	十、廿六	十二、二	十一、十七

| | | |

あり曾て同地方坐繰製絲の共同組織上に力を竭し精絲會社々長に擧げられ職に在ること數年後富岡町町長に推撰せらる又千葉縣下に養蚕を拓きて桑を栽ふること數十町歩而して人を派して居住せしめ蠶を養ふこと數年收繭數千貫以て該地方蠶業の發達を謀れり又自宅には各府縣より來りて養蠶製絲の二業を學ぶもの常に絶へざりしと云ふ編者は將來尙ほ望みある人士の訃に接し痛惜に堪へざるなり聊か開く所を叙して以て吊す

◎世界著名の生絲産出國に於ける生絲産出高

フリードリヒ大王の世に於て非常に發達せし所の普魯士國に於ける養蠶業は（已に千七百七十二年に於て養蠶の爲めに栽培せし桑樹の數約ね三百萬株なりし）現今之を行ふ範圍猶狹隘なりしと雖も獨逸帝國に於ける絹布製造業は歐洲各國中一の顯著なる地位に在り而して其顯著なる地位に在るは千八百九十年に之が材料として外國より輸入せし生絲の數量二百卅一萬キログラム其價額一億八百五十萬マルクなりしと獨逸國に於ける絹布製造業が織機の數と平均産出額とに於て歐洲中唯佛國のみに及ばざるとを以て明かなり、

世界の生絲産　出額は佛國里昂府の生絲商組合の報告する所に據れば正確に調査し難き露西亞、葡萄牙、獨逸、白耳義、瑞西を除き千八百八十七年には一萬千八百八十八噸、同八十八年には一萬千五百八十八噸、同八十九年には一萬千三百八十二噸、同九十年には一萬千四百四十一噸、同九十一年には一萬二千百五十九噸なり（一噸は千キログラムなり）今世界に於ける生絲の總産額に就きて見れば毎年甚しき異動あらざりしも其産出國の各〻に就きて累年の産額を比較すれば左に擧ぐるが如く甚著しき異動あることを見るべし

國	千八百八十七年	同八十八年	同八十九年	同九十年	同九十一年
佛蘭西	七一七	七九八	六一八	六五〇	五六六
伊太利	三四七六	三、五六六	二、八八〇	三、四四三	三、二一〇
澳地利・匈牙利	二六四	三〇七	二六七	二七一	二八一
西班牙	七八	八三	六五	八三	九〇
歐羅巴合計	四、五三五	四、七五四	三、八三〇	四、四四七	四、一四七
アナトリイン	一八八	一七〇	一八五	一八一	一三五
サロニヒ、ボロー、アドリヤノチベル	一三五	一二〇	一一〇	一二〇	一二〇
西黑亞	三四〇	二三一	三二四	三九〇	二九〇
希臘	二〇	一八	一八	一八	一八
東方諸國合計	六八三	五三九	六三七	七〇九	五六三
高加索	五五	五〇	七〇	五〇	七〇
支那（上海）	二、四五九	二、三五五	二、九一〇	二、七二〇	二、九五五
同（廣東）	一、四一一	七七五	一、六〇〇	一、二四三	一、二〇一
日本（橫濱）	一、二一七	二、四四一	二、一二五	二、〇一八	二、九九四
印度（カルクタ）	五二八	六七四	二一〇	二二四	二二九
亞細亞諸國出合計	六、六一五	六、二四五	六、八四五	六、二〇五	七、三七九

前表に據れば歐洲の各國中伊太利は毎年正則的に歐洲に於ける總産出高の凡四分の三を産出するに佛蘭西は千八百九十一年の産出額に最近十年間になき最低額を現出するに至れり數年以來十四萬個の織機を有せる佛國は（獨逸は八萬七千、英吉利は七萬七千、瑞西は三萬五千、露西亞は二萬五千、伊太利は二萬、澳地利匈牙利は一萬五千、西班牙は八千の織機を有せり）嘗に自國に産出せる生絲を以て

絹布を製出するのみならず尙多量の生絲を東亞細亞及印度より輸入せり又多量の生絲を輸出する亞細亞洲の各國中にては殊に日本國に注目せずんばあるべからず而して其注目すべきことは輸出高の千八百八十五年の百六十萬キログランムに對して千八百八十七年の凡そ七十八萬キログランムなりしと是なり又生絲の最大產出國なる支那は千八百八十八年と千八百八十九年との輸出高に甚しき異動を現出し且該國に於ては未だ嘗て一般に此製造業の隆盛に赴かんとする形況を見ず而して尙此他に一の注目すべきことは東印度の輸出高にして其千八百八十八年に於ける六十七萬四千キログランムの輸出高が千八百九十一年に於て二十二萬九千キログランムに退歩せしと是なり（統計集誌第百六十九號）

◎佛國製絲業奬勵金支給額　佛國に於ける二十七年度製絲業奬勵金支給額精算に附き里昂駐在山田領事より九月十三日附を以て外務省へ報告に曰く佛國勞働事務調査所の報告に據れば明治二十五年一月十三日發布の法律に準じ佛國政府が前年度に於て國庫より支給したる製絲業奬勵金總額は實に四百十萬千十四法二十四參に達せり此特典を享受したる製絲場、繰釜の數及生絲製產額等を列擧すれば左の如し

	二十七年	二十六年	二十五年
製絲場の數	二六六	二五二	二三八
二日取繰釜數	一七五	二〇四	三九七
二日以上取（同上）同	四百法	一〇、六四八	九、八〇五
二日以上取（同上）同	四百法	一、八一〇	一、六一九
附場釜數	一七二	一五四	一五八
玉繭一日取釜數　同	二百法		
奬勵金支給額	四、一〇一、〇二四・二四〇法	三、九六七、七一九法	三、六六一、三二一・六七
	七二四、四二二・七〇〇法	七三六、六九二法	七二六、八四一・〇〇法

（備考）但し二十七年生絲製出額の內佛國繭製絲高は六十六萬三千二百二十三基五四〇、外國繭製絲高は六萬千百九十九基一六〇なり

該表を按するに二十七年度奬勵金支給額は二十六年度に對し十三萬三千二百九十五法二十四參、二十五年度に比し四十三萬九千六百九十二法五十七參の增額を示し又製絲場の數も增加の趨向ありと雖も之に反し生絲製出高は稍〻不動の姿にして比例的に上進せざるが如きは玆に特記すべきの現象なりとす公報に據れば二十七年の生絲製出高は七十二萬四千四百二十二基にして二十五年分は七十二萬六千八百四十一基なるを以て其差二千三百八十九基に過ぎざるも奬勵金支給額に於ては前後凡そ四十四萬法の差あるを見るべし

前表に示すが如く二日取繰釜の數年々減少し二日以上取の分急速を以て增加せるは前記二十五年の法律實施の結果なりと謂はざるべからず

二十七年度奬勵金支給總額を生絲製出額を以て除するに生絲一基に附き奬勵金五法六十七參の割合と爲るべし

◎本邦蠶絲業者摸型の人形　明年は澳國ブウダペスト府に於て同府創開一千年祭博覽會開設に付き同會に陳列するため一昨二十六年本邦に來遊せられし澳國グルツ農藝化學試驗場長ヨハン、ポルレ氏の依賴に應じ農科大學教授理學博士佐々木忠二郎氏が擔當し人形師安本龜八氏に命じて製造せられし本邦蠶繭、製絲、機織業者の實狀摸型は此程完成したるを以て去る二十六、七の兩日赤阪溜池町大日本農會々堂に陳列し佐々木氏の知己朋友等に縱覽せしめられしが其摸型は女工五人男工一人にし

て女工は蠶兒に桑葉を給する狀、桑葉を剉切する狀、繭を絲に取る狀、絹機を織る狀、男工は絲を大枠に揚返す狀の五種にして衣服髮形ち髮飾り衣服の着こなし等何れも當今の流行を穿ち其骨格態度眞に迫れるを覺へたり

◎八田達也氏居を養蠶室に移す

山梨縣技手八田達也氏は此程甲府市橋町の養蠶室に居を移せしが氏は多年經驗したる實業を公務の餘暇に執らんがため好地を卜せられたるなりといふ

◎三井家の製絲場

三井家工業部に於ては上州富岡製絲場に百五十釜を增設し且つ尾州名古屋に三百釜、伊勢の津に三百釜、豐前中津に三百釜都合一千五十釜の製絲場を新設し來る二十九年の新蘭より着手する計畫にて設立地所撰定中なりしが諸設の準備も畧ミ整頓したりといふ

◎生絲相場三箇年の比較

最近三箇年十月二十日前後に於ける横濱市場の生絲相場は左の如し之を比較せば本年の生絲貿易が如何に好況なるかを知るに足らん

品名	二十八年	二十七年	二十六年
信州開明社太巻糸	八八〇円	七三〇円	七四五円
甲州山梨製絲同	八八〇	七六五	七四〇
美濃長尾細　同	八五〇	七一〇	七三五
上州甘樂社赤字巻糸	八七〇	七一五	六八〇

又十月二十日前後に於ける三箇年の外國爲換參着相場の比較は左の如し

	二十八年	二十七年	二十六年
倫敦參着	二志二片半	二志一片八分の五	二志五片八分の一
巴黎參着	二法七十九參	二法六十三參	三法五參
紐育參着	五十三弗四分の三	五十一弗四分の三	五十八弗四分の一

即ち爲換相場の最も安きは昨年にして本年は爲換の騰貴と共に絲價も大に騰貴したるものなり